

# 営業状況等統計調査

(平成27年度財務諸表等より)

— 平成28年度 —

<解 説 編>



日本  
旅館  
協会

一般社団法人 日本旅館協会  
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

# 平成 28 年度 営業状況等統計調査

## 目 次

### <解説編>

営業状況等統計調査票 .....	2
会員数と回答旅館ホテルの内訳 .....	6
はじめに .....	7
調査の概要 .....	7
 I.基本調査 .....	9
1. 回答旅館ホテルの規模 .....	9
2. 貸借対照表 .....	10
3. 売上高構成比 .....	11
4. 宿泊客 1 人当り売上高 .....	12
5. 定員稼働率・客室稼働率 .....	14
6. 売上効率 .....	15
7. 原価効率 .....	16
8. 経費率 .....	17
9. 客 1 人当り経費 .....	19
10. 利益率 .....	20
11. 就業者 .....	21
12. 従業員効率 .....	22
13. 建物面積効率 .....	23
14. 資本効率・資金回収年数 .....	24
 II.全件調査 .....	25
1. 集客の方法 .....	25
2. ホームページ .....	26
3. 外国人宿泊客 .....	27
4. インターネット対応 .....	28
5. クレジットカード .....	29
 むすび .....	29

平成28年度 営業状況等統計調査票

①

直近の事業年度の決算等にもとづいて記入し、  
平成28年 9月9日までにご提出ください。

1

A. 業態と地域（必須）

業態		1. 宿泊料金には夕食・朝食を含む 旅館営業	2. ルームチャージのみで販売する ホテル営業	摘要	1. 旅館業と2. ホテル業の双方に該当する場合は、1. をお選びください。
----	--	---------------------------	----------------------------	----	--

地域	③	以下より該当する地域を1から9の番号をお選び下さい。
----	---	----------------------------

- 1 北海道 …………… 北海道
- 2 東北 …………… 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
- 3 関東 …………… 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
- 4 北陸信越 …………… 新潟県、富山県、石川県、長野県
- 5 中部 …………… 福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- 6 関西 …………… 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 7 中国 …………… 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 8 四国 …………… 徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 9 九州 …………… 福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

B. 客室数と面積（必須）

	和室の数			和洋室の数			洋室の数			合 計		
客室数	4		室	5		室	6		室	7		室

建物延べ面積	8		m <sup>2</sup>
--------	---	--	----------------

C. 宿泊人員、営業日数等

収容定員	9		人
年間営業日数	10		日
年間販売可能客室数	11		室
年間延べ宿泊人員	12		人
旅行業者経由の宿泊人員	13		%
ネット業者経由の宿泊人員	14		%
自社HPからの宿泊人員	15		%
宿泊人員のうち外国人	16		%
年間延べ日帰り食事利用人員	17		人
年間延べ利用客室数(宿泊のみ)	18		室

外国人の国籍			
韓 国	19		人
台 湾	20		人
中 国	21		人
香 港	22		人
タ イ	23		人
米 国	24		人
英 国	25		人
その他	26		人

D. 標準宿泊料金(サ込み税別)

1. 閑散期に設定している宿泊料金	27		円	～	28		円
2. 繁忙期に設定している宿泊料金	29		円	～	30		円

裏面に続く

## E-1. 損益計算書(消費税除く)

平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

科目		金額		摘要	
総売上高		31	千円	決算書上の売上高を記入してください。ただし、付帯事業があって、売上高から経費、営業利益まで旅館ホテル業と分離可能な場合は分離して下記枠外に売上高等をご記入ください。分離できない場合は、合算額でご記入下さい。	
内 訳	宿泊客収入	32	千円	宿泊料売上げをご記入ください。ただし、諸税は含めないでください。	
	追加料理等	33	千円	1泊2食に含まれない追加料理、特別料理の売上	
	飲料・冷蔵庫	34	千円	酒類、ソフトドリンク、客室冷蔵庫売上	
	料理売上	35	千円	レストラン、日帰り宴会等料理売上(会場費、施設使用料含む)	
	飲料売上	36	千円	日帰り飲料売上	
	売店売上	37	千円	土産品、タバコなどの売店売上	
	その他売上	38	千円	娯楽施設などの売上、花代、出前、クリーニング等の収入	
	雑収入	39	千円	上記以外の収入。なお、サービス料(奉仕料)は該当する売上に含めてください	
	付帯事業売上	40	千円	旅館事業以外の売上	主な事業内容:
	売上原価	41	千円	決算書の売上原価を記入してください	
内 訳	期首棚卸し残高	42	千円	期首棚卸し残高の総額を記載ください	
	料理材料費	43	千円	料理材料仕入	
	飲料仕入	44	千円	酒類、清涼飲料水などの仕入	
	売店仕入	45	千円	売店商品仕入	
	その他仕入	46	千円	その他売上、付帯事業売上に関する仕入	
	期末棚卸し残高	47	千円	期末棚卸し残高の総額を記載ください	
売上総利益		48	千円	決算書の売上総利益を記入してください	
人件費、販売費及び一般管理費		49	千円	人件費、販売関連費用、業務経費、エネルギー経費、建物およびその他管理経費、減価償却費等諸経費合計	
営業利益		50	千円	決算書の営業利益を記入してください(損失の場合△印)	
営業外収益		51	千円	受取利息、受取配当金、その他営業外収入	
営業外費用		52	千円	支払利息、割引料その他営業外費用	
(うち支払利息)		53	千円	前項のうち支払い利息のみ	
経常利益		54	千円	決算書の経常利益を記入してください(損失の場合△印)	

## E-2. 人件費、販売費及び一般管理費の内訳 (E-1.損益計算書の事業年度のものでご記入願います)

給与・賞与 (役員報酬を含む)	55	千円	役員、社員、パートタイマー、アルバイトの給与と賞与の合計
法定福利費	56	千円	社会保険料、雇用保険料等の会社負担分
その他人件費	57	千円	制服代、賄費、その他福利厚生費、退職金
外注費	58	千円	清掃・夜警等の外部委託費、配膳会等人材派遣会社への支払い
送客手数料	59	千円	旅行業、ネット業者及び総合案内所に支払う送客手数料
カード手数料	60	千円	カード会社への支払手数料
広告宣伝費	61	千円	広告費、広告制作費に関わる費用
接待交際費	62	千円	得意先への接待、贈答品、冠婚葬祭費
旅費交通費	63	千円	出張旅費、一般交通費など
消耗品費	64	千円	箸、固形燃料、お膳紙、歯ブラシ、タオル、石鹸、トイレトペーパーなど
備品費	65	千円	減価償却の対象とならない備品の購入費用
洗濯リネン費	66	千円	シーツ、抱布、枕カバー、バスタオル、浴衣、丹前等の洗濯代、リネン費用
水道光熱費 (燃料費を含む)	67	千円	上下水道、電気、ガス、重油、灯油、温泉などの費用
修繕費	68	千円	固定資産、什器備品、送迎営業車輛等の修繕に要した費用
賃借料	69	千円	支払地代、支払家賃、事務機(コンピューター、FAX、コピー機等)のリース料等
通信費	70	千円	電話料金、切手代、宅配便など
減価償却費	71	千円	決算上の減価償却費をご記入ください。
その他	72	千円	上記に含まれないもの、端数調整など
合 計	73	千円	

## F. 貸借対照表

平成 年 月 日現在

※直近の決算書よりご記入下さい

借 方				貸 方			
科目		金 額		科目		金 額	
流動資産	74		千円	負債の部	流動負債	78	千円
固定資産	75		千円		(うち短期借入金)	79	千円
繰延資産	76		千円		固定負債	80	千円
					(うち長期借入金)	81	千円
				純資産の部 (資本金・剰余金)		82	千円
資産の部合計	77		千円	負債・資本の合計	83		千円

## G. 就業者

区分	項目	就業者数	
	常勤役員	84	人
	正社員	85	人
	パートタイマー	86	人

注1. 就業者数(正社員・常勤パートタイマー)は、各月末の就業者数の合計(12ヶ月分)を12で除した平均値をご記入下さい。

## H. 従業員(正社員)の平均年齢は何歳ですか

男性	87	歳	女性	88	歳
----	----	---	----	----	---

裏面に続く

I. 次の設問についてもよろしくご協力願います。（該当する番号に「○」もしくは番号を右側の□(四角枠)にご記入ください）

4

#### Q1.サービス料について

1. サービス料(奉仕料)を設定している	2. 設定していない	89
(※予約段階でサ込み表示されていても、館内販売含め何らかの設定がある場合、設定しているにお答え下さい)		

#### Q2.インターネット対応の状況について

① HP(ホームページ)の開設状況はいかがですか。	90
1. 自社専用HPがある(次の2. は含まない)      2. エージェント等のサイト内に自社HPがある 3. 旅館組合等やエージェントのHPに掲載されている      4. 自社HPは開設していない	
② HPの対応言語をお答えください。(複数回答)	91
1. 日本語のみ   2. 英語   3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)   4. 中国語(簡体字/大陸向け)   5. 韓国語   6. タイ語   7. 仏語 8. 独語   9. その他( )	
③ 外国語HPを作成されていない旅館のみお答えください。外国語のHPを作成する必要があると思いますか。	92
1. はい      2. いいえ	
④ HPから即時予約することが可能ですか。	93
1. はい      2. いいえ	
⑤ 即時予約可能なHPがある場合、その対応言語に○をつけて下さい。	94
1. 日本語のみ   2. 英語   3. 中国語(繁体字/台湾・香港向け)   4. 中国語(簡体字/大陸向け)   5. 韓国語   6. タイ語   7. 仏語 8. 独語   9. その他( )	
⑥ サイトコントローラー(手間いらず、ねっぱん、TLリンカーン等)を導入していますか。	95
1. はい      2. いいえ	
⑦ 無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)を設置していますか。	96
1. はい      2. いいえ	
⑧ (上記で「はい」の方のみ) 無料公衆無線LAN(フリーWi-fi)の設置場所はどちらですか。(複数回答)	97
1. 全館      2. ロビー      3. 客室      4. 会議室      5. 宴会場      6. その他( )	

#### Q3.外国人客の受け入れについて、近いと思われるものをお答え下さい

1. 料金に関わりなく受け入れたい      2. 高単価の外国人客のみ受け入れたい      3. 日本人観光客を優先する	98
4. 外国人客は受け入れたくない	

#### Q4.入浴施設

A. 露天風呂の有無(複数回答)	99
1. 一般的な露天風呂   2. 客室露天風呂   3. 貸し切り露天風呂   4. 無	
B. 温泉の有無	100
1. 有      2. 無	

#### Q5.クレジットカード対応の状況について

① クレジットカードによる決済は可能ですか	101				
1. 可      2. 不可					
② 【①の設問で1と答えた場合】 利用できるカードの種類をお答えください(複数回答可)	102				
1. VISA      2. Master Card      3. JCB      4. 三菱UFJニコス(MUFG,DC,UFJ,ニコス)   5. UC      6. イオン 7. Diners      8. AMEX      9. その他 ( )					
③ 決済処理にカード決済端末を導入していますか	103				
1. 導入している      2. 導入していない					
④ 【③の設問で1と答えた場合】 どのカード決済端末を使っていますか	104				
1. C-REX      2. INFOX      3. JET-S      4. その他( )					
⑤ 総売上高に占めるクレジットカード決済の割合はどれくらいですか					
	<table border="1"> <tr> <td>回答</td> <td>105</td> <td></td> <td>%</td> </tr> </table>	回答	105		%
回答	105		%		

ご協力ありがとうございました。

# 一般社団法人 日本旅館協会 (平成28年度4月1日現在)

地域(支部連合会)	会 員 数	区 分
北 海 道	203	北海道
東 北	298	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関 東	481	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	507	新潟県、富山県、石川県、長野県
中 部	339	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関 西	370	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中 国	158	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四 国	138	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九 州	261	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合 計	2,755	



●旅館営業とは、宿泊料金に夕食・朝食を含むところとした。

大旅館……客室数 100室以上

中旅館……客室数 31室以上99室未満

小旅館……客室数 30室以下

●ホテル営業とは、ルームチャージのみで販売するところとした。

## <平成28年度 営業状況等統計調査回答旅館ホテルの内訳>

	有効回答数	区 分			総回答数
		大 旅 館	中 旅 館	小 旅 館	
旅 館	242	35	123	84	308
北海道	17	6	5	6	25
東北	28	6	11	11	34
関東	36	4	21	11	45
北陸信越	42	4	23	15	53
中部	25	4	16	5	31
関西	45	4	21	20	59
中国	17	4	6	7	20
四国	12	1	7	4	15
九州	20	2	13	5	26
黒字旅館	178	28	94	56	-
赤字旅館	64	7	29	28	-
ホ テ ル	29	8	14	7	33

(注) 損益計算が十分な回答を有効とした。全軒調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

## 〈はじめに〉

この調査は当協会のすべての会員に調査票を送付して実施しています。本年は341軒の会員から回答が寄せられました。ご協力頂いた会員各位にはこの紙面をお借りしてお礼申し上げます。

旅館ホテルはわが国の観光旅行の社会基盤であり、近年急激な勢いで増加する訪日外国人客を受け入れる社会資本です。しかも、単に宿泊機能を提供する器にとどまらず、「おもてなし」に代表されるわが国の独自文化を提供しています。加えて多くの会員はわが国の伝統文化を日常的に維持発展させる役割を自ら担っています。

この調査は当協会の会員である旅館ホテルの経営の現状を分析することで、会員各位の経営基盤の安定に寄与すべく実施するものです。

今般、平成28年度の調査分析がまとまりましたので、当協会のホームページに上程します。

## (1) 対象年度を振り返る

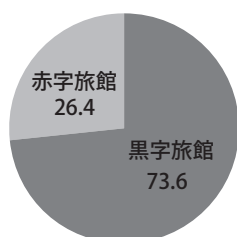
平成27年はJNTO(日本政府観光局)によると、訪日外国人旅行客が1,974万人と過去最高となった。

- ・国籍別の訪日客数をみると、  
中国、499万人(25.3%)  
韓国、400万人(20.3%)  
台湾、368万人(18.6%)  
香港、152万人(7.7%)  
米国、103万人(5.2%)  
タイ、80万人(4.0%)

となっている。カッコ内は総人数に対する構成比。

- ・観光庁の報告書によると、訪日外国人の平均泊数は10.2日で、消費額は1人当たり176,167円となっている。消費総額は年3.4兆円となり、うち25.8%が宿泊費と言われる。
- ・外国人の多く訪れる都道府県は、東京、京都、大阪、神奈川、北海道、山梨、岐阜、兵庫、奈良、広島の前であった。民間調査「ジャパンガイド」外国人宿泊者数はこの調査においても増加を示している。特に北海道の外国人利用率が高い。

図1 黒字・赤字旅館の割合 (単位：%)



## (2) 調査の概要 〈表1、表2、図1〉

この調査は「Ⅰ.基本調査」と「Ⅱ.全件調査」の2部構成となっている。基本調査は、損益計算や客室数、利用人員等の記述が十分な回答(有効回答)を対象としている。

全件調査は上記の回答には不十分であるが、部分的であっても回答を寄せている調査票を加える形で集計している。

また、規模別集計を実施しているが、その基準は客室数としている。

- ・大旅館：100室以上
- ・中旅館：31室以上99室以下
- ・小旅館：30室以下

さらに、経常利益を基準に「黒字旅館」「赤字旅館」としている。

ホテルについては回答軒数が限られることから内訳分析をおこなっていない。

## (3) 回答率

今年度の調査票発送部数は2,746軒、回答は旅館308軒、ホテル33軒となっている。うち有効回答は旅館242軒、ホテル29軒となっている。2,746軒に対する有効回答率は9.9%となっている。規模別の有効回答数をみると、大旅館の回答数が前年より15軒減少し35軒となり、大旅館の回答が少なかった。中旅館が123軒と最も多く小旅館は84軒の回答であった。

表1 有効回答旅館の推移 (単位：軒)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
回 答 軒 数	平成 22 年	62	112	45	219	—
	23 年	55	106	33	194	—
	24 年	48	106	82	236	22
	25 年	50	122	79	251	21
	26 年	50	111	83	244	23
	27 年	35	123	84	242	29

表2 黒字旅館の推移 (割合) (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
平成 22 年	48.4	42.9	35.6	42.9	—
23 年	45.5	47.2	27.3	43.3	—
24 年	79.2	56.6	51.2	59.3	68.2
25 年	72.0	69.7	58.2	66.5	81.0
26 年	80.0	57.7	56.6	61.9	69.6
27 年	80.0	76.4	66.7	73.6	86.2

- ・大旅館 35 軒 (▲15 軒、▲30.0%)
- ・中旅館 123 軒 (+12 軒、+10.8%)
- ・小旅館 84 軒 (+1 軒、+1.2%)

(ホテル) 回答は 29 軒で 6 軒の増加であった。

#### (4) 黒字・赤字の割合

営業収益の改善で経常利益が黒字の割合が大幅に増加している。平成22年度には42.9%にとどまる黒字の割合だったが、今年度は73.6%となっている。ホテルも86.2%と高い割合となっている。

大旅館は2年連続で80%の黒字割合となっている。規模別にみると、

- ・大旅館 80.0% (+0.0p、+0.0%)
- ・中旅館 76.4% (+18.7p、+32.4%)
- ・小旅館 66.7% (+10.1p、+17.8%)

と中旅館、小旅館の黒字割合が大幅に増加となっている。

(ホテル) 黒字は86.2%で旅館を上回る黒字率となっている。

#### (5) 今年度の主な変更点

- ・調査票の変更はなく、集計方針も変更はなかった。

#### (6) この報告書の編集方針

##### a) 解説編の表記方法について

- ・この調査は平成27年度の決算書を対象に平成28年度に実施している。各表の最新年度は「27年」と表記している。
- ・前年との比較:例えば「大旅館 20,000円 (▲500円、▲2.4%)」と表記した場合、20,000円は今年度の集計結果であり、( )内は前年度との比較を示す。
- ・数値が前年を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付す。
- ・%同士の引き算(例えば、14.4%－14.7%)の結果を%で表記すると100分率と混同があるので、単位をポイントとし「p」と表記する。
- ・通常の決算書で「販売費及び一般管理経費」と言われる経費を表3の区分としている。

- ・人件費は給与、福利費、その他給与に加え外注費も加えている。
- ・営業経費は送客手数料、客用消耗品などお客様の利用によって増減するものとしている。
- ・管理経費は固定的な経費としている。
- ・解説は旅館を中心におこない、ホテルについては行頭に(ホテル)と明記している。

##### b) 資料編について

資料編は集計結果のみを掲載している。留意点は次のとおり。

- ・調査は自主回答であるため一部に無回答がある。そこで項目ごとに集計対象を見直す処理(DK処理)をおこなっている。
- ・旅館平均、規模別、地域別、黒字・赤字別に集計しているが、その場合も以下のようにその都度計算する対象を見直している。  

$$\text{旅館の原価率} = \text{旅館の原価} \div \text{旅館の売上}$$

$$\text{黒字の原価率} = \text{黒字の原価} \div \text{黒字の売上}$$

$$\text{赤字の原価率} = \text{赤字の原価} \div \text{赤字の売上}$$
- ・回答された調査票のうち売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分している。
- ・さらに、異常値といえる過大あるいは過小の数値については、その項目を不明としている。
- ・また回答が2軒以下の場合は、算出された数値はブランクとしている。例えば、九州の大旅館は回答軒数が少ないために表示しないが、九州全体の平均には含めている。

表3 経費区分

人 件 費	給与・賞与、法定福利費、その他人件費、外注費
営 業 経 費	送客手数料、カード手数料、広告宣伝費、接待交際費、旅費交通費、客用消耗品費、洗濯リネン費
管 理 経 費	水道光熱費、修繕費、備品費、貸借料、通信費、その他
減 価 償 却 費	減価償却費

## I. 基本調査

基本調査は旅館ホテルの経営状況を分析する。

### 1. 回答旅館ホテルの規模 〈表 4、表 5〉

#### (1) 総客室数・収容定員

今年度の1軒当りは客室数59室、収容定員257人となっている。規模別では、

- ・大旅館 155室 (▲3室、▲2.0%)
- ・中旅館 58室 (+3室、+6.1%)
- ・小旅館 19室 (+1室、+3.6%)

大旅館は3室小さくなっている。

収容定員は、

- ・大旅館 656人 (▲31人、▲4.5%)
- ・中旅館 265人 (+23人、+9.4%)
- ・小旅館 79人 (+3人、+3.6%)

と大旅館でマイナスとなっている。

(ホテル)客室数88部屋143名となっている。

#### (2) 1室当り定員

1室当り定員 = 収容定員 ÷ 総客室数

1室当り定員は、和室を中心とする旅館で多く、洋室が中心のホテルは少ない。旅館の1室当り定員は平均で4.4人となっており、規模別では中旅館が4.5人となっている。

(ホテル)1室当り定員は1.6人となっている。

#### (3) 総売上高・宿泊人員

今年度の1軒当り総売上高は、

- ・大旅館 21億2,010万円 (+2億7,193万円、+14.7%)
- ・中旅館 6億9,157万円 (+8,939万円、+14.8%)
- ・小旅館 2億71万円 (+658万円、+3.4%)

となっている。大旅館、中旅館ともに15%弱の増加となっている。

黒字・赤字別では、中旅館を除くが黒字旅館の売上高が多い。

- ・大旅館 黒字22億7,529万円 赤字14億9,934万円
- ・中旅館 黒字6億8,914万円 赤字6億9,947万円
- ・小旅館 黒字2億2,554万円 赤字1億5,105万円

(ホテル)総売上高は7億2,516万円と前年を若干下回った。

年間宿泊人員は、

- ・大旅館 9万4,275人 (▲717人、▲0.8%)

・中旅館 3万4,704人 (+4,289人、+14.1%)

・小旅館 9,803人 (+837人、+9.3%)

となっている。前年との比較では、大旅館では若干のマイナスとなっている。中旅館は14%の大幅増加している。

(ホテル)宿泊人員は前年を5,100人下回る。

表4 1軒当り総客室数・収容定員・1室当り定員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総客室数 (室)	平成22年	148	60	21	77	—
	23年	168	60	21	84	—
	24年	168	60	19	68	71
	25年	186	59	18	71	65
	26年	158	55	18	64	99
	27年	155	58	19	59	88
収容定員 (人)	平成22年	700	274	91	357	—
	23年	735	279	92	376	—
	24年	723	284	83	303	118
	25年	775	273	74	310	122
	26年	687	242	76	277	178
	27年	656	265	79	257	143
1室当り定員 (人)	平成22年	4.7	4.6	4.4	4.6	—
	23年	4.4	4.6	4.4	4.5	—
	24年	4.3	4.7	4.3	4.5	1.6
	25年	4.2	4.6	4.2	4.3	1.9
	26年	4.4	4.4	4.2	4.4	1.8
	27年	4.2	4.5	4.2	4.4	1.6

表5 総売上高、年間宿泊人員

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総売上高 (万円)	平成22年	179,280	71,209	22,108	91,715	—
	23年	161,591	70,105	19,536	87,440	—
	24年	188,575	64,855	17,196	73,459	41,287
	25年	206,962	65,962	19,573	79,449	23,922
	26年	184,817	60,218	19,413	71,870	76,481
	27年	212,010	69,157	20,071	72,780	72,516
年間宿泊人員 (人)	平成22年	92,653	33,970	9,435	45,542	—
	23年	91,105	35,809	8,492	46,839	—
	24年	95,103	33,950	8,181	37,434	19,792
	25年	104,305	34,373	7,937	39,983	21,734
	26年	94,992	30,415	8,966	36,352	35,068
	27年	94,275	34,704	9,803	34,676	29,959

## 2. 貸借対照表〈表6、表7、表8〉

### (1) 資産の状況

1軒当り総資産は大幅な増加となった。

- ・大旅館 39億2,031万円  
(+10億8,987万円、+38.5%)
- ・中旅館 12億336万円  
(+3億1,916万円、+36.1%)
- ・小旅館 3億3,003万円  
(+6,351万円、+23.8%)

(ホテル)総資産は21億9,010万円であった。

### ①流動資産

流動資産は現預金や売掛金など流動性の高い資産である。総資産に占める割合は22.5%と前年より増加している。規模が大きいほど多くなっている。

(ホテル)流動資産は16.8%と旅館より低く、また、前年を4.8p下回る。

### ②固定資産

固定資産は総資産の77.2%を占めるが、前年よりも3.3pの減少となっている。

(ホテル)83.2%と固定資産は旅館より高い。

## (2) 負債・資本の状況

### ①流動負債

流動負債は1年以内に返済する借入金、買掛金、税金等の一時的な預り金であり、総資産の18.4%を占める。

流動資産(22.5%)が流動負債(18.4%)を上回っている。1年以内に支払い予定の流動負債を、手元現金等の流動資産が上回っていることから、資金繰りは安定していると読み取れる。

(ホテル)流動資産が16.8%であるのに対して流動負債は16.3%とほぼ拮抗している。

### ②長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計は、総資産の63.6%で前年を14.5p下回る。大旅館と中旅館で前年を大幅に下回り、小旅館では前年を上回った。

(ホテル)長短借入金は前年より増加となったが、旅館の半分となっている。

### ③自己資本比率

自己資本は資本金と剰余金からなる。その構成比は22.4%となっている。中旅館は25.7%と高くなっている。

(ホテル)自己資本比率は50.9%と旅館より高い。

表6 1軒当り資産

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル	
総資産額 (万円)	平成 22 年	347,864	121,590	57,455	172,515	－
	23 年	307,118	119,697	35,141	160,116	－
	24 年	350,180	128,010	37,830	143,818	120,998
	25 年	408,126	125,049	29,483	149,841	36,289
	26 年	283,044	88,420	26,652	108,992	207,953
	27 年	392,031	120,336	33,003	129,993	219,010
長短借入金合計 (万円)	平成 22 年	272,455	106,421	38,520	139,480	－
	23 年	265,531	95,835	23,678	133,153	－
	24 年	279,780	91,199	24,754	108,031	80,492
	25 年	252,004	80,257	22,463	95,357	27,302
	26 年	224,596	70,305	17,064	85,129	52,095
	27 年	50,610	75,457	21,940	82,641	66,109

表7 貸借対照表

(単位：%)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	24.0	22.1	17.6	22.5	16.8
固定資産	75.8	77.6	81.8	77.2	83.2
繰延資産	0.2	0.3	0.6	0.3	0.1
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	21.2	15.7	18.4	18.4	16.3
(うち短期借入金)	9.1	6.0	6.9	7.5	7.7
固定負債	58.9	58.6	64.5	59.3	32.8
(うち長期借入金)	54.8	56.7	59.6	56.1	22.5
(長短借入金合計)	63.9	62.7	66.5	63.6	30.2
自己資本	19.9	25.7	17.1	22.4	50.9
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
流動資産	平成 22 年	20.2	12.1	20.6	17.3	－
	23 年	18.9	15.4	19.3	17.4	－
	24 年	18.5	16.4	20.3	17.8	10.5
	25 年	22.9	20.6	15.3	21.4	19.2
	26 年	20.0	17.3	21.4	19.1	21.6
	27 年	24.0	22.1	17.6	22.5	16.8
固定資産	平成 22 年	79.7	87.4	78.5	82.4	－
	23 年	80.8	82.1	79.5	81.3	－
	24 年	81.4	83.4	77.1	81.8	89.5
	25 年	76.7	78.8	84.4	78.0	80.7
	26 年	79.8	82.1	78.1	80.5	77.7
	27 年	75.8	77.6	81.8	77.2	83.2
長短借入金合計	平成 22 年	78.3	87.6	67.0	80.8	－
	23 年	86.5	80.1	67.4	83.2	－
	24 年	79.9	71.3	65.4	75.1	66.5
	25 年	61.7	64.2	76.2	63.6	75.2
	26 年	79.4	79.5	64.0	78.1	25.1
	27 年	63.9	62.7	66.5	63.6	30.2

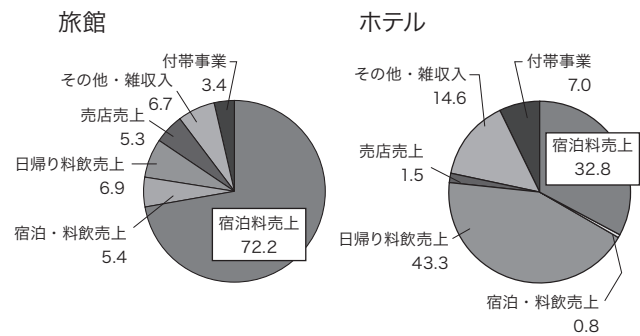
### 3. 売上高構成比 〈図2、表9〉

売上高の内訳である「宿泊料収入」「追加料理」「飲料売上」「売店売上」等の記述がない回答については、主に平均値から補足し推定している。

宿泊料売上は全体の72.2%を占め、次いで日帰り料飲6.9%、その他・雑収入6.7%、宿泊料飲5.4%、売店5.3%、付帯事業3.4%となっている。

(ホテル) 宿泊料売上げは32.8%となっている。また、日帰り料飲は43.3%と宿泊料売上を上回る。

図2 売上構成比 (単位：%)



#### (1) 宿泊料売上

総売上高に占める宿泊料は72.2%で前年度よりも2.9p増加した。大旅館の影響が大きい。

- ・大旅館 73.8% (+3.3p、+4.7%)
- ・中旅館 71.6% (+3.4p、+5.0%)
- ・小旅館 68.6% (+1.4p、+2.1%)

黒字・赤字別では、

- ・大旅館 黒字73.3% 赤字76.3%
- ・中旅館 黒字71.5% 赤字71.9%
- ・小旅館 黒字72.0% 赤字58.6%

赤字の小旅館では宿泊料売上の割合が低く、他は70%台となっている。

#### (2) 宿泊・料飲売上

宿泊客収入のうち追加料理と飲料・冷蔵庫を合計した料飲売上は平均で総売上高の5.4%(▲0.6p)となっている。黒字と赤字に特徴はみられない。

- ・大旅館 黒字5.0% 赤字6.6%
- ・中旅館 黒字5.7% 赤字5.5%
- ・小旅館 黒字5.4% 赤字3.6%

#### (3) 日帰り料飲売上

日帰り客料飲売上が総売上高に占める割合は平均で6.9%、小旅館で10.0%となっている。大旅館で5.0%と低い。

#### (4) 売店売上

売店売上の比率は長期的に低下している。規模の大きいほど売店売上の比率は高い。

- ・大旅館 6.8% (+0.2p、+3.0%)
- ・中旅館 4.3% (▲0.3p、▲6.5%)
- ・小旅館 3.9% (+0.6p、+18.2%)

表9 売上高構成

(単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
宿泊料売上	平成22年	69.1	66.9	66.6	68.1	—
	23年	68.5	67.5	64.2	67.9	—
	24年	65.5	68.5	63.3	66.5	28.4
	25年	67.1	68.6	72.1	68.1	47.2
	26年	70.5	68.2	67.2	69.3	33.0
	27年	73.8	71.6	68.6	72.2	32.8
宿泊・料飲売上	平成22年	5.9	5.9	5.4	5.9	—
	23年	6.3	5.7	5.1	6.0	—
	24年	6.0	5.4	4.5	5.6	1.3
	25年	5.5	6.7	5.0	5.9	5.9
	26年	6.2	5.9	5.1	6.0	1.7
	27年	5.2	5.8	4.9	5.4	0.8
日帰り料飲売上	平成22年	6.5	11.1	15.9	8.8	—
	23年	7.1	9.5	17.3	8.5	—
	24年	10.5	9.1	19.4	10.7	48.2
	25年	9.0	9.2	11.5	9.3	32.5
	26年	5.2	11.4	10.4	8.1	41.5
	27年	5.0	8.2	10.0	6.9	43.3
売店売上	平成22年	7.9	5.6	3.7	6.8	—
	23年	7.1	5.1	3.2	6.1	—
	24年	7.3	5.2	3.6	6.2	1.2
	25年	6.8	4.8	3.4	5.7	2.0
	26年	6.6	4.6	3.3	5.5	2.3
	27年	6.8	4.3	3.9	5.3	1.5
その他・雑収入	平成22年	8.9	6.9	4.3	7.9	—
	23年	9.2	7.2	1.6	8.0	—
	24年	7.3	5.9	3.9	6.5	9.9
	25年	7.7	5.9	4.2	6.7	3.5
	26年	8.5	5.8	4.4	7.1	16.9
	27年	7.2	6.7	3.7	6.7	14.6
付帯事業	平成22年	1.7	3.6	4.1	2.6	—
	23年	1.8	5.0	8.6	3.5	—
	24年	3.4	5.8	5.2	4.5	10.9
	25年	4.0	4.9	3.8	4.3	8.8
	26年	3.0	4.2	9.7	4.1	4.7
	27年	2.0	3.5	8.8	3.4	7.0

## (5) その他・雑収入

その他・雑収入は6.7%を占める。カラオケ酒場や夜食処、コンパニオン収入などである。

パブリック施設が充実している大旅館の比率が高く、小旅館が低い。

## (6) 付帯事業

この調査は旅館ホテル業が本業であることを前提としている。旅館ホテル業以外の事業が決算書に含まれる場合、付帯事業として回答することを求めている。具体例では、レストラン業、日帰り温泉施設、ブライダル業、旅客輸送業、テナント等賃貸業、不動産管理業、フィットネスクラブ、学生食堂、ギャラリーなどの回答があった。また、ワニの飼育による観光という事例もあった。

## 4. 宿泊客1人当り売上高〈図3、表10、表11〉

売上高を宿泊客人数で割り算して客単価を求めている。宿泊者数を基本とするものの、日帰り単価は日帰り利用人数より求めている。

### (1) 宿泊客1人当り売上高

宿泊客1人当り売上高＝総売上高÷宿泊人員

宿泊客1人当り総売上高には日帰り売上を含めている。一方、付帯事業は含めていない。

かつて小旅館が高かったが、大旅館ほど高く逆転している。小旅館は前年を878円下回る。

- ・大旅館 22,036円 (+3,170円、+16.8%)
- ・中旅館 19,223円 (+261円、+1.4%)
- ・小旅館 18,664円 (▲878円、▲4.5%)

黒字・赤字別で見ると中旅館、小旅館では赤字旅館が高単価となっている。

- ・大旅館 黒字22,161円 赤字21,315円
- ・中旅館 黒字17,948円 赤字24,722円
- ・小旅館 黒字17,809円 赤字22,175円  
(ホテル) 22,519円と旅館を上回る。

### (2) 宿泊客1人当り宿泊料売上

客1人当り宿泊料売上＝宿泊料売上高÷宿泊人員

客1人当りの宿泊料売上は宿泊単価である。大旅館と中旅館では前年を上回るが、小旅館は

14,050円と前年を下回る。

- ・大旅館 16,587円 (+2,867円、+20.9%)
- ・中旅館 14,271円 (+775円、+5.7%)
- ・小旅館 14,050円 (▲499円、▲3.4%)

黒字・赤字別で見ると、中旅館と小旅館で赤字が高い。大旅館では顕著な差はみられない。

- ・大旅館 黒字16,617円 赤字16,416円
- ・中旅館 黒字13,368円 赤字18,165円
- ・小旅館 黒字13,730円 赤字15,362円  
(ホテル) 7,935円と旅館よりも大幅に低い。

### (3) 宿泊客1人当り料飲売上

客1人当り料飲売上＝料飲売上高÷宿泊人員

宿泊客収入のうち追加料理と飲料・冷蔵庫の合計を宿泊客1人当り料飲売上としている。旅館の平均は1,140円となっている。大旅館が前年を上回るものの低下傾向が続く。

- ・大旅館 1,171円 (▲20円、▲1.7%)
- ・中旅館 1,142円 (▲14円、▲1.2%)
- ・小旅館 1,007円 (▲79円、▲7.3%)

大旅館と中旅館では赤字が高く、小旅館では赤字が低い。

- ・大旅館 黒字1,129円 赤字1,411円
- ・中旅館 黒字1,082円 赤字1,403円
- ・小旅館 黒字1,023円 赤字941円  
(ホテル) 198円と旅館に比較すると低い。

図3 客1人当り売上高の推移

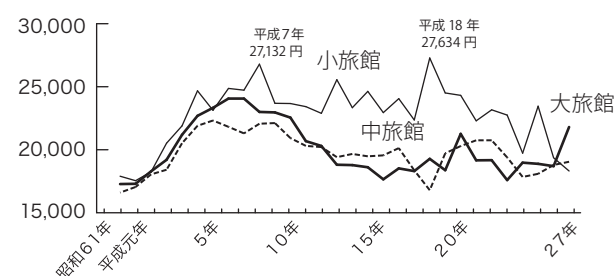


表10 宿泊客1人当り売上高 (単位:円)

	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
平成22年	19,350	20,962	23,432	20,139	—
23年	17,737	19,577	23,006	18,668	—
24年	19,150	17,992	19,919	18,737	18,590
25年	19,054	18,245	23,726	19,008	10,038
26年	18,866	18,962	19,542	18,959	20,792
27年	22,036	19,223	18,664	20,274	22,519

#### (4) 宿泊客1人当り売店売上

客1人当り売店売上＝売店売上高 ÷ 宿泊人員

売店単価は長期的には低下傾向にある。今年度は1,112円と前年を上回る。大旅館ほど売店の平均単価は高く規模格差が表れている。

- ・大旅館 1,529円 (+247円、+19.3%)
- ・中旅館 851円 (▲61円、▲6.7%)
- ・小旅館 797円 (+81円、+11.4%)

黒字・赤字別でみると、大旅館と中旅館では赤字が高い。

- ・大旅館 黒字1,514円 赤字1,614円
- ・中旅館 黒字786円 赤字1,130円
- ・小旅館 黒字821円 赤字703円

(ホテル)売店単価は363円と旅館平均の32.6%となっている。

#### (5) 宿泊客1人当りその他・雑収入 〈表12〉

宿泊客1人当りその他・雑収入＝

(その他売上＋雑収入) ÷ 宿泊人員

館内のカラオケ酒場や夜食処の売上、出前、花代(コンパニオン)、マッサージなどの手数料収入などを「その他売上」として設問している。付帯施設が充実している大旅館ほど消費単価は高く、小旅館は低い。

- ・大旅館 1,616円 (▲33円、▲2.0%)
- ・中旅館 1,344円 (+190円、+16.4%)
- ・小旅館 762円 (▲189円、▲19.9%)

(ホテル)3,531円と旅館平均を大きく上回る。

#### (6) 日帰り客1人当り売上

日帰り客1人当り売上＝日帰り客料飲売上

÷ 日帰り食事利用人員

日帰り単価は大旅館、中旅館で5,000円を上回る。小旅館は前年をさらに下回った。

- ・大旅館 5,398円 (▲49円、▲0.9%)
- ・中旅館 5,270円 (+163円、+3.2%)
- ・小旅館 4,204円 (▲343円、▲7.5%)

黒字・赤字別でみると大旅館と小旅館では赤字が高く、中旅館ではその逆となっている。日帰り単価は黒字・赤字とは相関していない。

・大旅館 黒字5,335円 赤字6,111円

・中旅館 黒字5,463円 赤字4,873円

・小旅館 黒字4,154円 赤字4,286円

(ホテル)4,989円と旅館をやや下回る。

表11 宿泊客一人当り売上高 (単位：円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
宿 泊 料 売 上	平成22年	13,367	14,020	15,608	13,711	—
	23年	12,153	13,209	14,772	12,675	—
	24年	12,982	13,084	13,314	13,049	5,934
	25年	13,317	13,155	17,789	13,528	5,200
	26年	13,720	13,496	14,549	13,704	7,194
	27年	16,587	14,271	14,050	15,160	7,935
料 飲 売 上	平成22年	1,140	1,247	1,258	1,186	—
	23年	1,122	1,118	1,181	1,122	—
	24年	1,184	1,032	952	1,104	281
	25年	1,093	1,279	1,237	1,180	647
	26年	1,191	1,156	1,086	1,169	373
	27年	1,171	1,142	1,007	1,140	198
売 店 売 上	平成22年	1,531	1,172	863	1,366	—
	23年	1,256	1,003	730	1,134	—
	24年	1,443	999	755	1,210	249
	25年	1,341	912	849	1,131	223
	26年	1,282	912	716	1,094	491
	27年	1,529	851	797	1,112	363
そ の 他 ・ 雑 収 入	平成22年	1,726	1,450	1,011	1,590	—
	23年	1,638	1,402	367	1,500	—
	24年	1,456	1,129	817	1,274	2,069
	25年	1,528	1,128	1,038	1,330	384
	26年	1,649	1,154	951	1,402	3,694
	27年	1,616	1,344	762	1,394	3,531

表12 日帰り客一人当り売上高 (単位：円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
飲料 売 上	平成22年	5,716	5,317	5,489	5,488	－
	23年	5,211	4,921	5,243	5,070	－
	24年	4,984	4,914	4,400	4,865	4,258
	25年	4,956	5,439	4,719	5,116	2,859
	26年	5,447	5,107	4,547	5,143	7,283
	27年	5,398	5,270	4,204	5,129	4,989

## 5. 定員稼働率・客室稼働率〈図4、表13、表14〉

旅館ホテル業の稼働率は定員と客室を基準とする。洋室に対して和室は1室当りの定員が多い。旅館では定員どおりに販売することは難しい。

### (1) 定員稼働率

$$\text{定員稼働率} = \text{宿泊人員} \div (\text{収容定員} \times \text{営業日数}) \times 100$$

大旅館の定員稼働率はかつて55%を超えていた。長期的に低下していたが、近年は持ち直しの傾向にある。規模別では大きいほど高稼働であるという状況が続いているが、その差は縮小しつつある。小旅館の稼働率上昇が顕著となっている。

- ・大旅館 40.3% (+1.9p、+4.8%)
- ・中旅館 36.8% (+1.7p、+4.8%)
- ・小旅館 35.8% (+2.0p、+6.0%)

黒字旅館は高稼働で、赤字旅館は低稼働である。

- ・大旅館 黒字40.6% 赤字38.3%
- ・中旅館 黒字37.8% 赤字32.7%
- ・小旅館 黒字38.4% 赤字28.1%

(ホテル) 定員稼働率は57.4%で旅館より高稼働となっている。

### (2) 客室稼働率

$$\text{客室稼働率} = \text{利用客室数} \div (\text{客室数} \times \text{営業日数}) \times 100$$

旅館では客室ごとの定員での集客が難しいため、定員稼働率と客室稼働率の差は大きく、客室稼働が高い。

規模別でみると大旅館が高く、小旅館が低い。定員稼働率と同様に規模による差は縮小しつつある。

- ・大旅館 65.5% (+1.1p、+1.8%)
- ・中旅館 62.9% (+3.9p、+6.5%)
- ・小旅館 59.1% (+4.5p、+8.3%)

(ホテル) 客室稼働率は71.3%で旅館より高稼働となっている。

### (3) 地域別稼働率

定員稼働率は、関西41.4%、中部40.4%、九州40.1%と3地域が40%台となっている。規模別でみると、大旅館では中部48.3%、北陸信越45.8%、関東43.6%が高い。

一方、小旅館では関西46.5%、中部44.9%、中国37.9%が高い。

客室稼働率は関西が70%台となっている。規模別でみると、大旅館は北陸信越80.3%、中部73.6%、関西70.6%が高い。小旅館では関西68.7%、北海道68.1%、中国65.0%が高い。

定員稼働率と客室稼働率の高いところが一致しないのは、1室定員が異なることによる。

図4 定員稼働率の推移 (%)

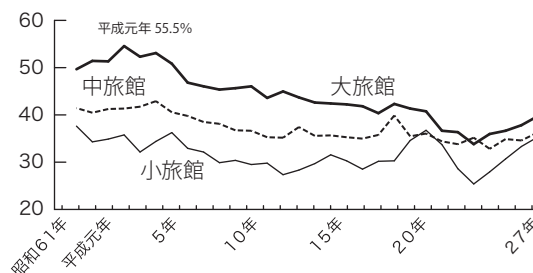


表13 定員稼働率・客室稼働率

(単位: 円)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
定員稼働率	平成22年	36.9	34.3	29.0	35.5
	23年	34.3	35.7	25.7	34.5
	24年	36.5	33.3	28.3	34.4
	25年	37.2	35.4	31.1	36.0
	26年	38.4	35.1	33.8	36.6
	27年	40.3	36.8	35.8	38.0
客室稼働率	平成22年	62.0	58.6	45.3	59.9
	23年	57.7	58.7	45.4	57.8
	24年	59.4	59.4	49.1	58.5
	25年	56.8	60.4	48.5	57.8
	26年	64.4	59.0	54.6	61.6
	27年	65.5	62.9	59.1	63.6
1室当り宿泊利用人員	平成21年	2.83	2.69	2.53	2.77
	22年	2.61	2.72	2.28	2.65
	23年	2.67	2.67	2.40	2.65
	24年	2.81	2.66	2.66	2.73
	25年	2.62	2.64	2.68	2.63
	26年	2.74	3.19	3.37	3.01

表14 地域別稼働率

(単位: 円)

地 域	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館
定員稼働率	北 海 道	37.4	35.1	30.5
	東 北	36.1	33.6	22.1
	関 東	43.6	36.3	35.3
	北 陸 信 越	45.8	33.5	31.6
	中 部	48.3	36.6	44.9
	関 西	39.8	40.7	46.5
	中 国	31.4	38.1	37.9
	四 国	-	41.8	37.0
	九 州	-	35.8	35.3
客室稼働率	北 海 道	68.0	56.5	68.1
	東 北	56.9	60.5	45.1
	関 東	65.4	56.6	52.4
	北 陸 信 越	80.3	55.2	55.4
	中 部	73.6	65.1	51.6
	関 西	70.6	70.9	68.7
	中 国	62.1	66.3	65.0
	四 国	-	75.7	-
	九 州	-	60.3	56.2

## 6. 売上効率

### (1) 1室当り売上高 〈図5、表15〉

1室当り売上高＝総売上高÷客室数

宿泊業にとって客室は最大の営業基盤である。客室1部屋当りの年間売上げは重要指標である。旅館は1,243万円と前年より113万円の増となっている。

大旅館は200万円の増加となっている。

- ・大旅館 1,369万円 (+200万円、+17.1%)
- ・中旅館 1,185万円 (+95万円、+8.7%)
- ・小旅館 1,077万円 (▲10万円、▲1.0%)

大旅館と小旅館では赤字の売上高が少ないが、中旅館では赤字旅館の方が売上は多い。

- ・大旅館 黒字1,406万円 赤字1,182万円
- ・中旅館 黒字1,171万円 赤字1,229万円
- ・小旅館 黒字1,114万円 赤字979万円

(ホテル) 1室売上高は827万円と旅館より低くなっている。

### (2) 建物面積1㎡当り売上高

建物面積1㎡当り売上高＝

総売上高÷建物延べ面積

建物延べ面積当り売上高は、営業形態の違いを排除して営業効率を分析するのに適した指標である。

規模別では中旅館がやや低い。大旅館と中旅館で増加だが、小旅館はマイナスとなっている。

ただし、建物延べ面積の回答は180軒と少なく、有効回答の74.4%にとどまる。

- ・大旅館 9.8万円 (+1.3万円、+14.9%)
- ・中旅館 8.4万円 (+0.5万円、+6.7%)
- ・小旅館 8.4万円 (▲0.0万円、▲0.1%)

面積当り売上では、黒字・赤字別の差が明確に表れているといえる。

- ・大旅館 黒字10.2万円 赤字6.0万円
- ・中旅館 黒字8.5万円 赤字8.2万円
- ・小旅館 黒字9.4万円 赤字5.7万円

(ホテル) 面積当り売上高は旅館より低い。

### (3) 就業者1人当り売上高

就業者1人当り売上高＝総売上高÷就業者数

旅館ホテル業の従事者は社員のみならずパートアルバイト、派遣社員や委託先で構成されている。この調査では常勤役員、社員、常勤パートを就業者とし、就業者当りの指標を算出している。

就業者1人当り売上高は大旅館ほど効率性が高く規模の差が明確となっている。

- ・大旅館 1,263万円 (+49万円、+4.0%)
- ・中旅館 911万円 (+36万円、+4.1%)
- ・小旅館 750万円 (▲56万円、▲6.9%)

黒字・赤字別にも格差が表れている。

- ・大旅館 黒字1,312万円 赤字1,028万円
- ・中旅館 黒字896万円 赤字964万円
- ・小旅館 黒字799万円 赤字633万円

(ホテル) 865万円となっている。

図5 1室当り売上の推移 (万円)

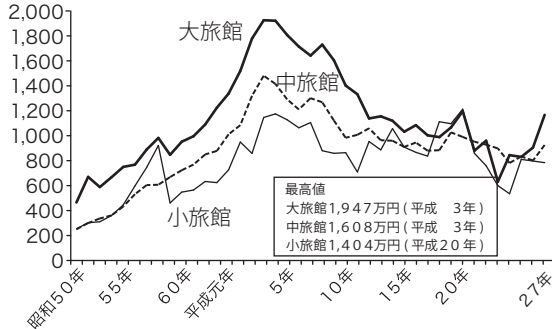


表15 売上効率

(単位: 万円)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室当り売上高	平成22年	1,211	1,187	1,058	1,193	—
	23年	961	1,164	937	1,039	—
	24年	1,123	1,075	887	1,081	579
	25年	1,112	1,115	1,097	1,112	370
	26年	1,169	1,090	1,087	1,130	774
	27年	1,369	1,185	1,077	1,243	827
建物1㎡当り売上高	平成22年	8.1	8.0	8.6	8.1	—
	23年	6.8	7.8	7.5	7.2	—
	24年	7.9	7.7	7.4	7.7	8.8
	25年	7.9	7.5	8.5	7.8	7.6
	26年	8.5	7.9	8.4	8.2	7.3
	27年	9.8	8.4	8.4	8.9	7.9
就業者1人当たり売上高	平成21年	1,176	926	808	1,045	—
	22年	1,175	905	747	1,021	—
	23年	1,172	903	722	1,008	941
	24年	1,108	867	774	952	719
	25年	1,214	875	806	1,017	1,034
	26年	1,263	911	750	1,010	865

## 7. 原価効率

### (1) 売上総原価率 〈図6、表16〉

$$\text{売上総原価率} = \text{売上原価} \div \text{総売上高} \times 100$$

総原価率は平均で24.2%とこの5年で最も低い。長期的にも低下傾向にある。売店やコンパニオンなど原価率の高い売上げが伸びないと考えられる。今年度はさらに料理材料費率も低い。総原価率は規模別でみると大旅館ほど高い。

- ・大旅館 24.4% (▲1.0p、▲3.8%)
- ・中旅館 24.0% (▲0.8p、▲3.4%)
- ・小旅館 23.9% (▲0.5p、▲2.1%)

(ホテル) 総原価率は25.4%となっている。

### (2) 料理材料費率

$$\text{料理材料費率} = \text{料理材料費} \div (\text{宿泊料} + \text{追加料理} + \text{日帰り料理売上}) \times 100$$

料理材料費率は19.1%と前年を1.3p低下した。大旅館と小旅館で18.8%となっている。

- ・大旅館 18.8% (▲1.0p、▲5.1%)
- ・中旅館 19.4% (▲1.6p、▲7.6%)
- ・小旅館 18.8% (▲1.9p、▲9.3%)

黒字旅館が料理材料費率は低い。

- ・大旅館 黒字18.8% 赤字19.0%
- ・中旅館 黒字19.1% 赤字20.3%
- ・小旅館 黒字18.1% 赤字21.0%

なお、料理材料費率の算出は、旅館では料理売上と宿泊料を加えた額を分母とし、ホテルでは料理売上のみを分母にしてる。

(ホテル) 前年より低下し32.7%となっている。

### (3) 飲料仕入率

$$\text{飲料仕入率} = \text{飲料仕入} \div \text{飲料売上} \times 100$$

飲料仕入率は平均32.6%となっているが、大旅館が低く、小旅館が高い。

- ・大旅館 31.9% (+0.4p、+1.4%)
- ・中旅館 32.4% (▲0.6p、▲1.8%)
- ・小旅館 35.7% (+1.3p、+3.8%)

(ホテル) 飲料仕入率は29.2%と旅館より低い。

### (4) 売店仕入率

$$\text{売店仕入率} = \text{売店仕入} \div \text{売店売上} \times 100$$

売店原価率は前年を0.5p低下した。大旅館が1.8pの低下に対して、中旅館と小旅館で上昇している。

- ・大旅館 66.4% (▲1.8p、▲2.6%)
- ・中旅館 68.4% (+1.4p、+2.0%)
- ・小旅館 67.7% (+0.4p、+0.6%)

(ホテル) 売店原価率は64.1%と前年を上回る。

図6 売上総原価率の推移 (%)

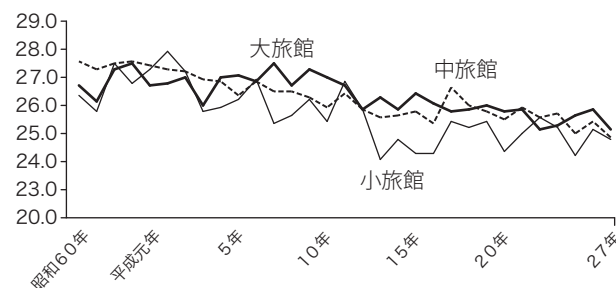


表16 原価率 (単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総原価率	平成22年	25.4	25.5	24.2	25.4	—
	23年	24.4	25.0	25.0	24.7	—
	24年	24.6	25.2	24.5	24.8	28.1
	25年	25.1	24.2	23.1	24.6	20.7
	26年	25.4	24.8	24.4	25.1	26.1
	27年	24.4	24.0	23.9	24.2	25.4
料理材料費率	平成22年	19.7	21.1	20.3	20.3	—
	23年	19.2	20.7	21.8	20.0	—
	24年	19.3	20.2	20.6	19.8	35.5
	25年	19.7	20.1	20.0	19.9	40.2
	26年	19.8	21.0	20.7	20.4	39.8
	27年	18.8	19.4	18.8	19.1	32.7
飲料仕入率	平成22年	32.1	32.3	33.9	32.3	—
	23年	31.7	32.3	37.6	32.2	—
	24年	31.6	34.2	34.1	32.9	31.3
	25年	31.5	33.0	32.8	32.2	32.8
	26年	31.5	33.0	34.4	32.4	24.9
	27年	31.9	32.4	35.7	32.6	29.2
売店仕入率	平成22年	67.7	66.9	67.2	67.5	—
	23年	67.0	65.9	64.8	66.5	—
	24年	66.6	65.7	66.8	66.3	70.0
	25年	66.6	67.8	64.6	66.9	70.2
	26年	68.2	67.0	67.3	67.8	61.4
	27年	66.4	68.4	67.7	67.3	64.1

## 8. 経費率 〈表 17、表 18〉

この調査では原価を除く経費を人件費、営業経費、管理経費、減価償却費の4つに分類している。表18では経費分類したうえで主要経費を内訳としている。

### (1) 人件費率

人件費率＝人件費 ÷ 総売上高 ×100

経費内訳より、給与・賞与、法定福利費、その他人件費、外注費の合計を人件費としている。旅館ホテル業は労働集約産業であり、他産業より人件費圧力が高い。人件費率は規模にかかわらず前年を下回った。売上高の増加が主要因か。大旅館ほど人の効率が良い。

- ・大旅館 30.3% (▲0.2p、▲0.6%)
- ・中旅館 31.8% (▲0.4p、▲1.3%)
- ・小旅館 34.3% (▲0.9p、▲2.7%)

赤字旅館は黒字旅館よりも人件費率が高い。特に赤字小旅館は36.6%と高い。資料編より内訳をみると、赤字旅館は給与・賞与率が高く、黒字旅館は外注費率が高い。

- ・大旅館 黒字30.0% 赤字 32.3%
- ・中旅館 黒字31.4% 赤字 33.1%
- ・小旅館 黒字33.5% 赤字 36.6%

(ホテル) 人件費率は32.8%と旅館より高い。ホテルは給与・賞与や法定福利費の率が高い。

### (2) 営業経費率

営業経費率＝営業経費 ÷ 総売上高 ×100

送客手数料、カード手数料、広告宣伝費、接待交際費、旅費交通費といった販売経費。客用消耗品費、洗濯リネン費といった利用人員に比例する経費をもって営業経費としている。営業経費率は大旅館で上昇し、小旅館で下降した。平均では前年より0.1pの上昇となっている。

- ・大旅館 13.8% (+0.3p、+2.3%)
- ・中旅館 14.1% (▲0.0p、▲0.1%)
- ・小旅館 11.7% (▲1.0p、▲8.1%)

黒字・赤字別でみると、黒字旅館の方が営業経費率は高い。

- ・大旅館 黒字13.9% 赤字 13.4%
- ・中旅館 黒字14.2% 赤字 13.6%
- ・小旅館 黒字12.1% 赤字 10.5%

営業経費率の内訳をみると、大旅館では送客手数料率が高い。小旅館では客用消耗品費率が高い。(ホテル)9.2%と旅館より低い。広告宣伝費率が旅館よりも高いが、送客手数料率が低い。

### (3) 管理経費率

管理経費率＝管理経費 ÷ 総売上高 ×100

主なものは水道光熱費、修繕費、備品費、賃借料、通信費として、さらにその他経費を加えている。管理経費は固定費的要素が強い。

中旅館と小旅館で前年を上回り、大旅館が低下した。各規模ともその他経費率が上昇した。

表17 経費率 (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
人件費率	平成22年	31.5	32.3	37.8	32.1	－
	23年	30.6	32.5	40.6	31.8	－
	24年	30.2	32.5	35.8	31.6	34.8
	25年	30.3	30.7	35.3	30.9	29.8
	26年	30.5	32.2	35.2	31.6	34.5
	27年	30.3	31.8	34.3	31.4	32.8
営業経費率	平成22年	13.5	13.7	12.4	13.5	－
	23年	13.6	13.7	12.4	13.6	－
	24年	12.7	14.0	12.4	13.2	9.4
	25年	13.0	13.9	12.1	13.3	11.5
	26年	13.5	14.1	12.7	13.6	10.4
	27年	13.8	14.1	11.7	13.7	9.2
管理経費率	平成22年	20.3	22.1	21.4	21.1	－
	23年	22.2	22.3	21.6	22.2	－
	24年	21.8	21.1	22.3	21.6	21.7
	25年	21.8	22.9	21.0	22.2	25.2
	26年	20.2	20.3	20.1	20.2	19.4
	27年	19.9	21.1	21.4	20.6	21.4
減価償却費率	平成22年	7.8	7.0	7.0	7.4	－
	23年	7.7	6.3	7.0	7.1	－
	24年	7.1	6.4	5.8	6.7	5.7
	25年	6.1	5.7	6.8	6.0	4.9
	26年	7.0	6.7	6.9	6.9	9.6
	27年	5.5	5.3	6.0	5.5	5.4
支払利息率	平成22年	4.4	3.4	3.0	3.9	－
	23年	3.7	2.8	2.3	3.3	－
	24年	3.2	3.2	2.2	3.1	3.8
	25年	2.8	2.7	2.1	2.7	2.1
	26年	2.6	2.5	1.7	2.5	1.3
	27年	2.1	2.1	1.9	2.1	2.0

- ・大旅館 19.9% (▲0.3p、▲1.7%)
- ・中旅館 21.1% (+0.8p、+3.7%)
- ・小旅館 21.4% (+1.3p、+6.7%)

管理経費率は黒字旅館で低く、赤字旅館では高くなっている。資料編(表4-1)より内訳をみていくと水道光熱費率と賃借料率が赤字旅館では高い。特に大旅館の赤字は賃借料率が顕著に高い。

- ・大旅館 黒字19.3% 赤字 23.1%
- ・中旅館 黒字19.1% 赤字 27.4%
- ・小旅館 黒字20.0% 赤字 25.9%

(ホテル)管理経費率は21.4%で、旅館と比較すると水道光熱費率が低く、その他経費率が高い。

#### (4) 減価償却費率

減価償却費率＝減価償却費 ÷ 総売上高 ×100

建物等の償却資産を毎年減価償却費として計上する経費であり、本来、売上や収益に関係なく計上

される。平均では前年より▲1.4Pとなっている。

- ・大旅館 5.5% (▲1.5p、▲20.9%)
- ・中旅館 5.3% (▲1.4p、▲21.4%)
- ・小旅館 6.0% (▲0.9p、▲12.9%)

黒字・赤字の別では、赤字旅館が高くなっている。

- ・大旅館 黒字5.3% 赤字 7.0%
- ・中旅館 黒字5.2% 赤字 5.5%
- ・小旅館 黒字5.4% 赤字 7.8%

(ホテル)5.4%で旅館と同水準となっている。

#### (5) 支払利息率

支払利息率＝支払利息 ÷ 総売上高 ×100

支払利息率は売上高に占める支払利息の割合である。5年連続で前年を下回っている。大旅館中旅館で前年を下回り、小旅館が上昇した。

- ・大旅館 2.1% (▲0.5p、▲20.8%)
- ・中旅館 2.1% (▲0.4p、▲14.0%)
- ・小旅館 1.9% (+0.2p、+11.6%)

(ホテル)2.0%と旅館と同水準となっている。

表18 主要経費構成比

(単位：%)

	(大旅館)		(中旅館)		(小旅館)		旅館		ホテル	
	26年	27年	26年	27年	26年	27年	26年	27年	26年	27年
総売上高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
売上原価	25.4	24.4	24.7	23.9	24.3	24.1	25.0	24.1	26.1	25.6
売上総利益	74.6	75.6	75.3	76.1	75.7	76.0	75.0	75.9	73.9	74.4
販売費及び一般管理費	71.2	69.5	73.2	72.2	74.9	73.4	72.3	71.2	70.2	68.9
人件費	30.5	30.3	32.2	31.8	35.2	34.3	31.6	31.4	34.5	32.8
給与・賞与	21.7	19.3	24.8	24.1	28.9	28.6	23.5	22.5	26.0	25.0
法定福利費	2.9	2.6	2.8	2.8	3.1	3.1	2.9	2.7	3.5	3.3
その他人件費	1.0	1.2	1.8	1.9	1.5	1.0	1.3	1.5	0.7	1.1
外注費	5.0	7.2	2.8	3.0	1.7	1.6	3.9	4.7	4.4	3.5
営業経費	13.5	13.8	14.1	14.1	12.7	11.7	13.6	13.7	10.4	9.2
送客手数料	6.8	7.5	6.4	7.1	4.6	4.6	6.4	7.0	2.8	2.0
カード手数料	0.5	0.5	0.7	0.6	0.7	0.8	0.6	0.6	0.8	0.7
広告宣伝費	1.5	1.6	1.8	1.5	1.5	1.3	1.6	1.5	2.1	2.4
接待交際費	0.2	0.3	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.4
旅費交通費	0.5	0.5	0.5	0.5	0.7	0.6	0.5	0.5	0.2	0.3
客用消耗品費	2.1	1.9	2.5	2.2	3.2	2.3	2.4	2.1	2.1	1.8
洗濯リネン費	1.9	1.7	1.9	1.9	1.7	1.8	1.9	1.8	2.1	1.6
管理経費	20.2	19.9	20.3	21.1	20.1	21.4	20.2	20.6	19.4	21.4
水道光熱費	8.0	5.6	7.9	6.5	7.1	6.5	7.9	6.1	6.2	5.1
修繕費	1.9	2.3	2.3	2.0	2.3	2.4	2.1	2.1	1.9	2.3
備品費	0.9	1.2	1.1	0.9	1.0	0.8	1.0	1.0	0.6	1.0
賃借料	3.3	2.4	2.3	2.6	2.6	2.5	2.8	2.5	4.3	2.3
通信費	0.3	0.3	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4
その他	5.8	8.1	6.3	8.6	6.6	8.8	6.1	8.4	6.1	10.3
G O P 利益	10.4	11.6	8.7	9.2	7.7	8.6	9.5	10.2	9.6	10.9
減価償却費	7.0	5.5	6.7	5.3	6.9	6.0	6.9	5.5	5.9	5.4
営業利益	3.4	6.0	2.0	3.9	0.7	2.6	2.7	4.7	3.7	5.5
営業外収益	1.9	1.9	2.2	1.8	2.4	3.1	2.1	2.0	3.5	3.5
営業外費用	2.8	2.3	2.7	2.4	2.0	2.2	2.7	2.3	2.5	2.9
(うち支払利息)	2.6	2.1	2.5	2.1	1.7	1.9	2.5	2.1	1.3	2.0
経常利益	2.6	5.6	1.5	3.4	1.2	3.5	2.1	4.3	4.8	6.1
償却前利益	9.6	11.1	8.2	8.6	8.1	9.5	8.9	9.8	10.7	11.5

(注)GOP 利益は Gross Operation Profit の略で業務総利益。減価償却費＋営業利益で求めている。

## 9. 客1人当り経費 〈表19〉

### 客1人当り経費＝経費 ÷ 宿泊人員

客1人当り経費は客当り総売上に関連する傾向がある。なお、この項では付帯事業売上を含めて客1人当り総売上高としている。小旅館で前年を下回るが、平均では1,243円の増加となっている。

(ホテル)客当り総売上は前年より大幅増である。

#### (1) 客1人当り人件費

大旅館では802円の上昇だが、小旅館よりも低い。中旅館は小幅ながら上昇した。

- ・大旅館 6,818円 (+802円、+13.3%)
- ・中旅館 6,356円 (+67円、+1.1%)
- ・小旅館 7,064円 (▲629円、▲8.2%)

(ホテル)8,043円と旅館を上回る。

#### (2) 客1人当り営業経費

小旅館の営業経費は前年を367円下回る。送客手数料が大旅館で高く小旅館で低いため、営業経費の規模別の特徴となっている。

・大旅館 3,106円 (+446円、+16.8%)

・中旅館 2,818円 (+66円、+2.4%)

・小旅館 2,408円 (▲367円、▲13.2%)

(ホテル)旅館に比較し、送客手数料は少なく、広告宣伝費が多い。

#### (3) 客1人当り管理経費

管理経費は平均で331円の上昇となった。経費内訳では修繕費が増加している。

・大旅館 4,466円 (+489円、+12.3%)

・中旅館 4,211円 (+256円、+6.5%)

・小旅館 4,421円 (+39円、+0.9%)

(ホテル)5,253円と旅館に比較し高い。

#### (4) 客1人当り減価償却費

各規模とも減少している。

・大旅館 1,245円 (▲132円、▲9.6%)

・中旅館 1,053円 (▲248円、▲19.1%)

・小旅館 1,239円 (▲273円、▲18.1%)

(ホテル)減価償却費は旅館を180円上回る。

(単位：円)

表19 宿泊客1人当り主要経費

	(大旅館)		(中旅館)		(小旅館)		旅館		ホテル	
	26年	27年	26年	27年	26年	27年	26年	27年	26年	27年
総売上高	19,706	22,488	19,526	19,999	21,842	20,620	19,818	21,061	21,809	24,499
売上原価	5,000	5,498	4,831	4,775	5,317	4,959	4,963	5,084	5,691	6,268
売上総利益	14,706	16,991	14,694	15,224	16,525	15,661	14,855	15,977	16,119	18,231
販売費及び一般管理費	14,030	15,635	14,295	14,437	16,361	15,131	14,326	14,986	15,302	16,878
人件費	6,016	6,818	6,289	6,356	7,693	7,064	6,260	6,611	7,527	8,043
給与・賞与	4,285	4,342	4,833	4,823	6,304	5,899	4,662	4,734	5,661	6,122
法定福利費	562	590	555	553	685	635	570	576	757	802
その他人件費	190	271	353	382	331	210	263	320	147	264
外注費	979	1,615	548	598	373	320	765	980	962	854
営業経費	2,659	3,106	2,751	2,818	2,775	2,408	2,704	2,893	2,259	2,255
送客手数料	1,343	1,688	1,245	1,412	997	955	1,277	1,479	618	496
カード手数料	92	104	129	120	154	158	111	117	170	162
広告宣伝費	295	351	356	302	328	261	321	318	457	598
接待交際費	41	57	58	55	83	71	51	58	51	97
旅費交通費	97	103	104	109	148	114	104	107	49	69
客用消耗品費	419	417	491	442	688	472	469	435	450	436
洗濯リネン費	371	386	368	377	376	377	370	381	464	397
管理経費	3,977	4,466	3,955	4,211	4,382	4,421	4,003	4,334	4,239	5,253
水道光熱費	1,576	1,259	1,549	1,307	1,542	1,346	1,563	1,291	1,353	1,252
修繕費	370	509	449	395	495	487	410	449	406	573
備品費	169	264	215	187	228	156	191	215	124	245
賃借料	652	537	440	524	565	512	564	528	935	564
通信費	65	70	73	78	110	101	72	77	92	89
その他	1,145	1,828	1,228	1,720	1,442	1,818	1,202	1,773	1,328	2,530
G O P 利益	2,054	2,601	1,699	1,840	1,675	1,769	1,888	2,139	2,093	2,681
減価償却費	1,377	1,245	1,300	1,053	1,512	1,239	1,360	1,148	1,277	1,328
営業利益	677	1,356	399	787	163	530	529	991	816	1,353
営業外収益	381	421	420	363	530	643	408	413	772	848
営業外費用	544	516	523	477	436	450	527	490	539	705
(うち支払利息)	506	463	482	430	380	391	486	439	291	490
経常利益	514	1,260	296	672	257	723	410	914	1,049	1,496
償却前利益	1,891	2,506	1,596	1,725	1,768	1,962	1,769	2,062	2,326	2,824

## 10. 利益率 〈図7、表 20、表 21〉

利益とは、「売上－経費」である。売上から原価を差し引いた売上総利益、売上総利益から諸経費を差し引いた営業利益など複数の種類の利益を算出している。

### (1) 売上総利益率

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

売上総利益率は平均で 0.9p の上昇となっている。

- ・大旅館 75.6% (+1.0p、+1.3%)
- ・中旅館 76.1% (+0.8p、+1.1%)
- ・小旅館 76.0% (+0.3p、+0.3%)

黒字・赤字別では赤字の小旅館が低い。

- ・大旅館 黒字 75.6% 赤字 75.2%
- ・中旅館 黒字 76.0% 赤字 76.5%
- ・小旅館 黒字 77.1% 赤字 72.6%

(ホテル) 旅館に比較しやや低い。

### (2) GOP 利益率 (償却前営業利益率)

$$\text{GOP 利益率} = (\text{減価償却費} + \text{営業利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

GOP利益は、売上高から運営経費を控除した利益である。GOPは Gross Operation Profit の略で、直訳すれば「運営総利益」である。Profitは利益であるからGOP利益という表現はおかしいが、あえて利益をつけている。

運営経費には減価償却費や固定資産税、支払利息は含まないとされるが、この調査では減価償却費と営業利益の合計でGOP利益を求めている。

GOP利益を求める根拠は所有と運営を分離して把握したいという考えから来ている。すなわち、GOP利益は支配人など運営トップの成績表といえる。

GOP利益率は大旅館で高く、小旅館で低い。

- ・大旅館 11.6% (+1.2p、+11.2%)
- ・中旅館 9.2% (+0.5p、+5.7%)
- ・小旅館 8.6% (+0.9p、+11.4%)

黒字・赤字別では高低が顕著になっている。

- ・大旅館 黒字12.4% 赤字 6.5%
- ・中旅館 黒字11.4% 赤字 2.3%
- ・小旅館 黒字11.6% 赤字 ▲0.4%

(ホテル) 10.9%と旅館業と同水準となっている。

### (3) 営業利益率 〈図7〉

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

営業利益率は平成22年ごろを底に回復傾向となっている。大旅館ではこの10年でもっとも高い。

小旅館は上昇率が高い。

- ・大旅館 6.0% (+2.6p、+77.3%)
- ・中旅館 3.9% (+1.9p、+96.8%)
- ・小旅館 2.6% (+1.9p、+267.4%)

黒字・赤字別では営業利益率の差は顕著で、特に小旅館では14pを超える。

- ・大旅館 黒字7.1% 赤字 ▲0.5%
  - ・中旅館 黒字6.2% 赤字 ▲3.2%
  - ・小旅館 黒字6.1% 赤字 ▲8.2%
- (ホテル) 5.5%と旅館より高い。

図7 営業利益率の推移 (%)

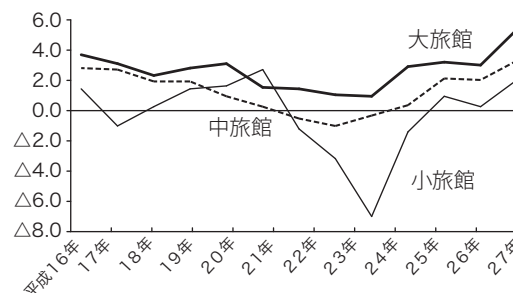


表20 利益率 (単位: %)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
売上総利益率	平成22年	74.6	74.5	75.8	74.6	－
	23年	75.6	75.0	74.9	75.3	－
	24年	75.4	74.9	75.4	75.2	73.8
	25年	74.9	75.8	76.6	75.4	79.4
	26年	74.6	75.3	75.7	75.0	73.9
	27年	75.6	76.1	76.0	75.9	74.4
GOP利益率	平成22年	9.3	6.5	4.3	7.9	－
	23年	9.2	6.5	0.2	7.7	－
	24年	10.7	7.3	4.9	8.9	7.8
	25年	9.8	8.3	8.1	9.1	12.9
	26年	10.4	8.7	7.7	9.5	9.6
	27年	11.6	9.2	8.6	10.2	10.9
営業利益率	平成22年	1.6	▲0.5	▲2.7	0.5	－
	23年	1.5	0.2	▲6.8	0.6	－
	24年	3.5	0.9	▲0.9	2.1	2.1
	25年	3.8	2.6	1.3	3.1	8.0
	26年	3.4	2.0	0.7	2.7	3.7
	27年	6.0	3.9	2.6	4.7	5.5

#### (4) 経常利益率

$$\text{経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総売上高} \times 100$$

経常利益率はプラス4.3%と順調に増加してる。  
営業利益ほどもは規模格差がない。

- ・大旅館 5.6% (+3.0p、+115.5%)
- ・中旅館 3.4% (+1.9p、+124.1%)
- ・小旅館 3.5% (+2.3p、+192.1%)

この調査で黒字・赤字別とは経常利益を基準としている。黒字・赤字別の経常利益率は、

- ・大旅館 黒字7.0% 赤字 ▲3.0%
- ・中旅館 黒字5.5% 赤字 ▲3.5%
- ・小旅館 黒字6.7% 赤字 ▲6.1%

(ホテル) 経常利益率は6.1%と旅館平均を上回っている。

#### (5) 償却前利益率

$$\text{償却前利益率} = (\text{減価償却費} + \text{税引き前利益}) \div \text{総売上高} \times 100$$

経常利益に減価償却費を加えたのが償却前利益である。減価償却費は資産償却のため現金の支出を伴わない。したがって、償却前利益が営業上発生する現金である。この現金が借入金の返済原資となる。大旅館では2桁となっている。

- ・大旅館 11.1% (+1.5p、+16.1%)
- ・中旅館 8.6% (+0.4p、+5.2%)
- ・小旅館 9.5% (+1.4p、+17.4%)

(ホテル) 11.5%と旅館より高くなっている。

表21 利益率 (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
経常利益率	平成22年	▲0.7	▲1.8	▲1.8	▲1.1	－
	23年	▲0.6	▲2.8	▲3.6	▲1.6	－
	24年	2.9	▲0.3	▲1.1	1.3	▲0.1
	25年	3.6	2.0	2.3	2.8	6.8
	26年	2.6	1.5	1.2	2.1	4.8
	27年	5.6	3.4	3.5	4.3	6.1
償却前利益率	平成22年	6.5	3.8	3.9	5.3	－
	23年	7.0	4.3	1.0	5.6	－
	24年	7.0	9.0	5.1	7.7	4.9
	25年	9.6	7.6	9.1	8.8	11.7
	26年	9.6	8.2	8.1	8.9	10.7
	27年	11.1	8.6	9.5	9.8	11.5

#### 11. 就業者 (表22、表23)

旅館ホテル業には様々な雇用形態の人が従事している。この調査では常勤者である常勤役員、正社員、常勤パートタイマーを就業者としている。

##### (1) 就業者の数

$$\text{就業者数} = \text{常勤役員} + \text{正社員} + \text{常勤パートタイマー}$$

1軒当たり就業者数は各規模とも増員となっている。

- ・大旅館 168人 (+16人、+10.5%)
- ・中旅館 78人 (+9人、+12.8%)
- ・小旅館 28人 (+3人、+12.6%)

(ホテル) も86人と9人の増員となっている。

##### (2) 正社員の平均年齢

男性は平均で45.4歳と前年よりやや上昇した。小旅館は1.0歳上昇した。女性は平均で43.2歳と0.9歳上昇している。新卒の採用がある大旅館は36.7歳と若く、この傾向は6年間変わっていない。小旅館は47.3歳と最も年齢が高い。

表22 就業者数 (単位：人)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
就業者数	平成22年	152	77	28	90	—
	23年	137	79	26	87	—
	24年	161	74	24	77	46
	25年	165	75	28	78	34
	26年	152	69	25	72	77
	27年	168	78	28	74	86

表23 正社員の年齢 (単位：歳)

年 度		(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
男性	平成22年	41.8	44.3	44.6	43.7	—
	23年	40.8	44.4	44.7	43.4	—
	24年	42.3	44.2	46.7	44.6	45.6
	25年	42.8	45.2	46.5	45.1	44.7
	26年	42.0	45.8	45.1	44.8	42.5
	27年	42.5	45.8	46.1	45.4	43.3
女性	平成22年	38.1	41.9	44.1	41.3	—
	23年	36.6	41.9	45.6	40.9	—
	24年	37.1	42.0	45.8	42.3	39.0
	25年	37.3	42.1	46.0	42.3	41.0
	26年	36.2	41.9	46.9	42.3	42.1
	27年	36.7	42.5	47.3	43.2	39.4

## 12. 従業員効率 〈図 8、表 24、表 25〉

### (1) 1 室当り就業者数

$$1 \text{ 室当り就業者数} = \text{就業者数} \div \text{客室数}$$

1室当り就業者数は1.25名で前年より増員となっている。大旅館がもっとも増員となっているが、中旅館や小旅館よりも1室当りでは人の数は少なくなっている。

- ・大旅館 1.08人 (+0.12人、+12.9%)
- ・中旅館 1.32人 (+0.07人、+5.5%)
- ・小旅館 1.49人 (+0.09人、+6.7%)

黒字・赤字別をみると中旅館を除き赤字旅館が多い。赤字小旅館では1.63人となっている。

- ・大旅館 黒字1.07人 赤字 1.15人
- ・中旅館 黒字1.33人 赤字 1.29人
- ・小旅館 黒字1.44人 赤字 1.63人  
(ホテル)0.96人で旅館より少ない。

### (2) 就業者 1 人当り年間宿泊人員 〈表 24〉

$$\text{就業者 1 人当り年間宿泊人員} =$$

$$\text{年間宿泊利用人員} \div \text{就業者数}$$

就業者当りの宿泊人員は前年を36名下回る。大旅館562人に対して小旅館は360人にとどまる。

- ・大旅館 562人 (▲62人、▲10.0%)
- ・中旅館 454人 (+12人、+2.6%)
- ・小旅館 360人 (▲9人、▲2.5%)

黒字・赤字別では各規模とも顕著な差がある。

- ・大旅館 黒字579人 赤字 478人
- ・中旅館 黒字474人 赤字 384人
- ・小旅館 黒字411人 赤字 237人  
(ホテル)355人と旅館より少ない。

### (3) 就業者 1 人当り人件費

$$\text{就業者 1 人当り人件費} =$$

$$(\text{外注費などを含む}) \text{ 人件費} \div \text{就業者数}$$

人件費には正規給与の他に外注費や臨時・アルバイトの給与、法定福利費などが含まれる。人件費をあえて就業者数で割り出している。大旅館が多く小旅館が少ない。

- ・大旅館 383万円 (+13万円、+3.5%)
- ・中旅館 292万円 (+14万円、+4.9%)
- ・小旅館 257万円 (▲30万円、▲10.5%)

黒字・赤字別をみると、大旅館と小旅館では黒字の方が人件費が多い。

- ・大旅館 黒字394万円 赤字 332万円
- ・中旅館 黒字282万円 赤字 325万円
- ・小旅館 黒字267万円 赤字 233万円  
(ホテル)289万円と旅館より少ない。

### (4) 労働生産性

$$\text{労働生産性} = \text{売上総利益} \div \text{就業者数}$$

労働生産性は就業者1人当り売上総利益であり人件費支払いの原資といえる。大旅館中旅館で前年より増加した。

- ・大旅館 954万円 (+48万円、+5.3%)

表 24 従業員効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室 当り 就業者 数(人)	平成22年	1.03	1.28	1.33	1.14	－
	23年	0.82	1.29	1.26	1.02	－
	24年	0.96	1.22	1.21	1.08	0.62
	25年	0.91	1.27	1.52	1.12	0.64
	26年	0.96	1.25	1.40	1.12	0.75
	27年	1.08	1.32	1.49	1.25	0.96
就業者1人 当り年間 宿泊人員 (人)	平成22年	611	449	353	525	－
	23年	663	458	335	546	－
	24年	591	467	345	511	449
	25年	590	457	308	494	494
	26年	624	442	369	514	475
	27年	562	454	360	478	355
就業者1人 当り人件 費(万円)	平成22年	370	299	307	335	－
	23年	360	295	313	326	－
	24年	354	295	259	319	318
	25年	388	270	270	321	333
	26年	370	278	287	320	357
	27年	383	292	257	319	289

表 25 労働生産性、労働分配率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
労働生産性 (万円)	平成22年	878	691	619	780	—
	23年	889	678	559	769	—
	24年	884	676	543	758	676
	25年	828	658	593	718	551
	26年	906	658	609	762	765
	27年	954	699	568	770	654
労働分配率 (%)	平成22年	42.2	43.3	49.8	43.0	—
	23年	40.5	43.4	54.2	42.2	—
	24年	40.1	43.0	46.3	41.7	43.4
	25年	40.5	40.5	46.2	40.9	37.5
	26年	40.9	42.8	46.6	42.1	46.7
	27年	40.1	41.7	45.1	41.4	44.1

- ・中旅館 699万円 (+41万円、+6.2%)
- ・小旅館 568万円 (▲41万円、▲6.7%)

黒字・赤字別でみると、大旅館と小旅館で顕著な差がみられる。

- ・大旅館 黒字992万円 赤字 773万円
  - ・中旅館 黒字684万円 赤字 750万円
  - ・小旅館 黒字614万円 赤字 458万円
- (ホテル)654万円と旅館を下回った。

#### (5) 労働分配率 〈図 8〉

$$\text{労働分配率} = (\text{外注費などを含む}) \text{人件費} \div \text{売上総利益} \times 100$$

売上総利益に占める人件費の割合が労働分配率である。旅館ホテル経営では労働分配率40%以内が基準であると言われる。小旅館では45.1%と高い。

大旅館ではほぼ40%となっている。

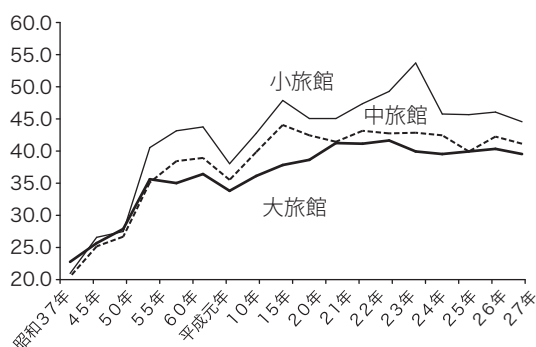
- ・大旅館 40.1% (▲0.8p、▲1.9%)
- ・中旅館 41.7% (▲1.0p、▲2.5%)
- ・小旅館 45.1% (▲1.4p、▲3.1%)

黒字・赤字別でみると、赤字旅館が高いのは明確である。大旅館では3.3p差に対して小旅館では7.0p差があり、赤字小旅館は労働分配率は50%台となっている。

- ・大旅館 黒字39.7% 赤字43.0%
- ・中旅館 黒字41.3% 赤字43.3%
- ・小旅館 黒字43.4% 赤字50.4%

(ホテル)44.1%と前年より改善した。

図8 労働分配率の推移 (%)



#### 13. 建物面積効率 〈表 26〉

##### (1) 1室当り建物延べ面積

$$1 \text{ 室当り建物延べ面積} = \text{建物延べ面積} \div \text{客室数}$$

小旅館の1室当り面積が小さい。会議室など客室以外の付帯施設の差であると考えられる。

- ・大旅館 143m<sup>2</sup> (▲1m<sup>2</sup>、▲0.4%)
- ・中旅館 147m<sup>2</sup> (▲0m<sup>2</sup>、▲0.1%)
- ・小旅館 122m<sup>2</sup> (▲13m<sup>2</sup>、▲9.9%)

黒字・赤字別でみると、提供面積の広い方が赤字となっている。

- ・大旅館 黒字143m<sup>2</sup> 赤字149m<sup>2</sup>
- ・中旅館 黒字141m<sup>2</sup> 赤字168m<sup>2</sup>
- ・小旅館 黒字119m<sup>2</sup> 赤字129m<sup>2</sup>

(ホテル)1室当り建物延べ面積は77m<sup>2</sup>と旅館の半分となっている。

##### (2) 定員1人当り提供面積

$$\text{定員1人当り提供面積} = \text{建物延べ面積} \div \text{収容定員}$$

1室当り面積と同様に大旅館が広く小旅館が小さくなっているが、その差は小さい。

- ・大旅館 33.2m<sup>2</sup> (▲0.1m<sup>2</sup>、▲0.3%)
- ・中旅館 32.1m<sup>2</sup> (▲1.1m<sup>2</sup>、▲3.4%)
- ・小旅館 27.8m<sup>2</sup> (▲5.2m<sup>2</sup>、▲15.7%)

(ホテル)定員面積は51.4m<sup>2</sup>と旅館を上回る。

表26 建物面積効率 (単位: m<sup>2</sup>)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
1室当り延べ面積	平成22年	149	146	127	147
	23年	138	148	128	142
	24年	143	141	119	140
	25年	143	145	119	142
	26年	144	147	135	145
	27年	143	147	122	143
定員1人当り延べ面積	平成22年	31.6	32.0	29.2	31.7
	23年	31.6	32.2	33.2	31.9
	24年	33.3	30.1	28.0	31.5
	25年	34.9	31.5	28.2	32.9
	26年	33.3	33.2	33.0	29.3
	27年	33.2	32.1	27.8	32.0

## 14. 資本効率・資金回収年数 〈表 27〉

### (1) 総資本利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示す。今年度は各規模とも前年を上回っている。

- ・大旅館 3.6% (+2.4p、+196.8%)
- ・中旅館 2.0% (+0.8p、+67.3%)
- ・小旅館 2.1% (+0.7p、+48.3%)

黒字・赤字別では顕著な差が現れている。

- ・大旅館 黒字4.7% 赤字 ▲0.5%
- ・中旅館 黒字4.1% 赤字 ▲1.4%
- ・小旅館 黒字4.5% 赤字 ▲3.2%

(ホテル)2.2%と旅館より低くなっている。

### (2) 総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \times \text{総資本}$$

総資本回転率は、総資本に対する売上高である。この数値が高いほど投下した資本がよく回っているといえる。したがって高いほどよい。

総資本回転率は、業界ごとに標準値が異なる。旅館ホテルにあっては一般に新增改築の直後は低く、資産償却が進むに従って高い値を示す。

小旅館が高い値を示している。

- ・大旅館 0.58回 (▲0.05回、▲8.1%)
- ・中旅館 0.59回 (▲0.10回、▲14.5%)
- ・小旅館 0.62回 (▲0.09回、▲12.8%)

黒字・赤字別でみると、黒字旅館が高く、赤字旅館が低い。大旅館ほどその差は顕著である。

- ・大旅館 黒字0.66回 赤字0.28回
- ・中旅館 黒字0.72回 赤字0.37回
- ・小旅館 黒字0.67回 赤字0.52回

(ホテル)0.35回で旅館より低い。

### (3) 資金回収年数

$$\text{資金回収年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

資金回収年数は借入金が理論上何年で完済するかをみる指標である。減価償却費と経常利益の合計額

を原資として、その全額を借入金返済にあてるという計算となっている。

分子である借入金が少なく、分母である利益が多い方がよいから、回収年数が短い、すなわち小さい数値ほどよい。

収益性が改善し各規模とも前年より短くなっている。大旅館では10年を下回る。

- ・大旅館 9.4年 (▲5.1年、▲35.2%)
- ・中旅館 12.0年 (▲1.9年、▲13.7%)
- ・小旅館 11.2年 (▲0.5年、▲4.3%)

黒字・赤字別でみると差が顕著である。黒字旅館では10年未満で返済が可能となっているが、赤字旅館では返済に40年以上かかる。

- ・大旅館 黒字7.1年 赤字 41.9年
- ・中旅館 黒字9.8年 赤字 47.4年
- ・小旅館 黒字8.3年 赤字 52.5年

(ホテル)資金回収年数は7.2年と旅館より短い。

表27 資本効率

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
総資本利益率(%)	平成22年	▲0.5	▲1.5	▲1.3	▲0.9	—
	23年	▲0.3	▲1.1	▲2.5	▲0.7	—
	24年	0.2	1.4	▲0.3	0.7	▲0.5
	25年	2.1	1.1	1.9	1.6	2.3
	26年	1.2	1.2	1.4	1.2	2.5
	27年	3.6	2.0	2.1	2.7	2.2
総資本回転率(回)	平成22年	0.53	0.60	0.39	0.54	—
	23年	0.54	0.60	0.57	0.56	—
	24年	0.55	0.52	0.43	0.52	0.33
	25年	0.54	0.55	0.66	0.55	0.64
	26年	0.63	0.69	0.71	0.66	0.40
	27年	0.58	0.59	0.62	0.59	0.35
資金回収年数(年)	平成22年	22.3	34.8	45.7	26.8	—
	23年	22.3	30.5	42.8	25.3	—
	24年	18.5	14.8	27.3	17.3	43.8
	25年	11.5	16.3	13.2	13.3	13.3
	26年	14.5	13.9	11.7	14.1	6.0
	27年	9.4	12.0	11.2	10.6	7.2

#### (4) 借入金依存度 〈表 28〉

$$\text{借入金依存度} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div \text{総資本} \times 100$$

借入金依存度は総資本に占める借入金の割合を示す。前年のような規模格差がなくなった。

- ・大旅館 63.9% (▲15.5p、▲19.5%)
- ・中旅館 62.7% (▲16.8p、▲21.1%)
- ・小旅館 66.5% (+2.5p、+3.9%)

赤字の中旅館が低い値となっている。

- ・大旅館 黒字57.7% 赤字 85.8%
- ・中旅館 黒字77.5% 赤字 38.3%
- ・小旅館 黒字67.0% 赤字 65.4%

(ホテル)借入金依存度は30.2%と低い。

#### (5) 自己資本比率

$$\text{自己資本比率} = \text{自己資本} \div \text{総資本} \times 100$$

自己資本は資本金と利益剰余金からなる。自己資本は多いほどよい。中旅館がもっとも高い。

- ・大旅館 19.9% (+9.5p、+91.5%)
- ・中旅館 25.7% (+20.8p、+423.5%)
- ・小旅館 17.1% (▲0.3p、▲1.8%)

(ホテル)自己資本比率は50.9%と高い。

表 28 借入金依存度、自己資本比率 (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
借入金依存度	平成22年	78.3	87.5	67.0	80.9	—
	23年	86.5	80.1	67.4	83.2	—
	24年	79.9	71.2	65.4	75.1	66.5
	25年	61.7	64.2	76.2	63.6	75.2
	26年	79.4	79.5	64.0	78.1	25.1
	27年	63.9	62.7	66.5	63.6	30.2
	27年	63.9	62.7	66.5	63.6	30.2
(短期)	平成26年	9.1	7.4	7.2	8.4	7.7
	27年	9.1	6.0	6.9	7.5	7.7
(長期)	平成26年	70.2	72.1	56.9	69.7	17.3
	27年	54.8	56.7	59.6	56.1	22.5
自己資本比率	平成22年	12.6	▲0.3	20.6	8.5	—
	23年	3.3	7.4	18.9	5.5	—
	24年	10.3	19.7	22.8	15.2	13.3
	25年	26.8	24.6	10.6	24.9	3.9
	26年	10.4	4.9	17.4	9.0	55.5
	27年	19.9	25.7	17.1	22.4	50.9

## II. 全件調査

以下の項目は、回答された全ての調査票を対象に集計している。

### 1. 集客の方法 〈図 9、表 29〉

#### (1) 予約方法

お客様はどのような方法で旅館ホテルを予約されているのでしょうか。リアルエージェントと言われる旅行業、インターネット窓口であるネット業者、自社サイトのそれぞれの比率を設問している。図9の「直接その他」は100%から引き算で算出している。

#### (2) 旅行業経由

$$\text{旅行業経由} = \text{旅行業経由の宿泊人員} \div \text{年間延べ宿泊人員} \times 100$$

旅行業経由はこの5年ほど確実に低下している。予約の方法が大きく変化している。

- ・大旅館 50.0% (+1.7p、+3.5%)
  - ・中旅館 44.0% (+0.6p、+1.4%)
  - ・小旅館 21.4% (▲5.7p、▲21.0%)
- (ホテル)21.1%と旅館の半数となっている。

表 29 エージェントと自社HP (単位：%)

	年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホテル
旅行業経由	平成22年	60.0	57.8	38.8	58.2	—
	23年	58.7	50.8	30.0	54.9	—
	24年	59.3	52.4	32.8	55.2	30.9
	25年	53.6	49.2	23.5	50.0	20.6
	26年	48.3	43.4	27.1	44.6	22.2
	27年	50.0	44.0	21.4	44.2	21.1
ネット業者経由	平成22年	14.1	14.7	23.1	14.7	—
	23年	17.1	19.3	37.8	18.4	—
	24年	17.4	21.7	33.2	19.9	30.7
	25年	15.9	20.9	34.9	19.2	43.9
	26年	17.3	21.9	34.1	20.6	35.6
	27年	19.7	26.5	35.5	24.6	43.9
自社サイトより	平成22年	5.1	5.6	11.8	5.5	—
	23年	5.6	6.5	17.8	6.2	—
	24年	5.2	7.6	18.9	6.8	3.6
	25年	9.6	11.4	22.8	11.2	13.1
	26年	9.3	13.2	21.9	11.9	9.8
	27年	8.7	12.0	18.6	11.3	10.6

(注)24年までは「インターネット経由」「うち自社サイト」と設問していた。

### (3) ネット業者経由

$$\text{ネット業者経由} = \text{ネット経由の宿泊人員} \div \text{年間延べ宿泊人員} \times 100$$

ネット業者経由は小旅館が牽引する形で進んできたが、小旅館のネット業者経由はここ5年は横ばいとなっている。一方で、大旅館中旅館の上昇が顕著となっている。

- ・大旅館 19.7% (+2.4p、+13.9%)
  - ・中旅館 26.5% (+4.6p、+21.0%)
  - ・小旅館 35.5% (+1.4p、+4.1%)
- (ホテル) 43.9%と旅館より20p近く高い。

### (4) 自社サイト経由の宿泊人員

$$\text{自社サイト経由の構成比} = \text{自社サイトよりの宿泊人員} \div \text{年間延べ宿泊人員} \times 100$$

小旅館が先行する形で拡大してきたが、安定期に入った感がある。旅館としては手数料のかからない自社サイトからの予約を増やしたいが、ネット業者との競争となっている。

- ・大旅館 8.7% (▲0.6p、▲6.5%)
  - ・中旅館 12.0% (▲1.2p、▲9.1%)
  - ・小旅館 18.6% (▲3.3p、▲15.1%)
- (ホテル) 10.6%と旅館よりも低くなっている。

## 2. ホームページ〈表30、表31〉

### (1) ホームページの対応言語

ホームページの対応言語で「日本語のみ」は45.5%に低下した。

外国語対応では英語が最も多い。次いで、香港や台湾で用いられている繁体字(中国語)、中国大陆で用いられている簡体字(中国語)その同位で韓国語と

なっている。

- ・英語 49.0% (+8.3p)
- ・繁体字 23.7% (+3.4p)
- ・簡体字 15.6% (+0.7p)
- ・韓国語 15.6% (+2.0p)
- ・タイ語 1.3% (+1.0p)
- ・日本語のみ 45.5% (▲8.7p)

(ホテル)日本語のみが60.6%と旅館より外国語化が進んでいない。

### (2) 予約機能

ホームページからの即時予約は86.7%が可能としている。大旅館は100%となっている。

- ・大旅館 100.0% (+3.8p、+4.0%)
  - ・中旅館 92.3% (+2.0p、+2.2%)
  - ・小旅館 76.6% (▲0.3p、▲0.4%)
- (ホテル)90.9%と旅館を上回る。

表30 自社ホームページ対応言語 (単位：%)

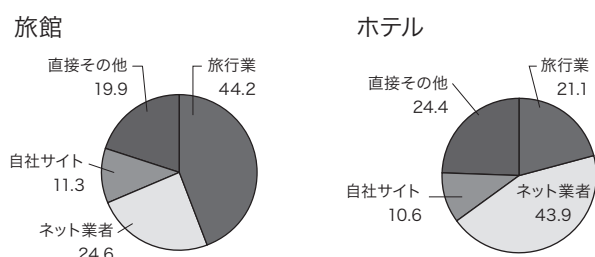
年 度	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字						
旅館	22年	42.5	19.2	16.4	16.8	—	—	—	55.1
	23年	44.3	23.2	18.2	20.2	—	—	—	53.2
	24年	37.5	18.1	15.1	15.8	—	—	2.7	57.1
	25年	39.1	20.1	15.1	13.0	0.7	0.7	0.0	56.2
	26年	40.7	20.3	14.9	13.6	0.3	0.3	0.7	54.2
	27年	49.0	23.7	15.6	15.6	1.3	0.6	0.6	45.5
ホテル	24年	30.4	8.7	4.3	4.3	—	—	—	69.6
	25年	50.0	17.9	10.7	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9
	26年	28.6	14.3	10.7	10.7	0.0	0.0	0.0	67.9
	27年	36.4	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	60.6

(注) タイ語、仏語、独語は25年調査より設問している。

表31 自社ホームページについて (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
自社専用HPがある	平成22年	88.5	87.6	91.7	88.7
	23年	91.7	91.2	100.0	92.8
	24年	100.0	91.5	93.4	93.8
	25年	100.0	96.4	89.0	94.3
	26年	100.0	97.6	86.3	93.6
	27年	100.0	97.2	89.8	94.5
HPから即時予約できる事が可能	平成22年	96.6	91.1	83.0	90.8
	23年	96.6	93.9	82.9	92.8
	24年	100.0	93.8	78.4	89.6
	25年	96.3	87.9	80.0	86.6
	26年	96.2	90.3	76.9	86.1
	27年	100.0	92.3	76.6	86.7

図9 宿泊人員構成 (単位：%)



即時予約可能なHPがある場合の対応言語は、日本語のみが59.9%で、英語37.1%となっている。次いで、中国語(繁体字)、韓国語、中国語(簡体字)の順となっている。タイ語や欧州の言語への対応もみられる。

(ホテル) 日本語のみは76.7%で、英語は23.3%となっている。中国語、韓国語はそれぞれ3.3%で並んでいる。外国語対応は旅館より低い。

表32 即時予約可能な HP がある場合の対応言語 (単位：%)

27年	英語	中国語		韓国語	タイ語	仏語	独語	その他	日本語のみ
		繁体字	簡体字						
旅館	37.1	14.6	10.5	11.6	0.7	0.4	0.4	0.0	59.9
ホテル	23.3	3.3	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	76.7

表33 外国人宿泊人員比率 (単位：%)

年 度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅館	ホテル
平成 22 年	2.9	2.5	5.6	2.9	—
23 年	3.1	1.4	7.6	2.5	—
24 年	4.0	1.8	7.9	3.4	7.6
25 年	5.2	3.6	4.2	4.5	9.0
26 年	7.5	6.0	8.1	7.0	8.1
27 年	7.6	6.5	10.0	7.3	8.2

表34 地域別外国人宿泊人員比率 (単位：%)

地 域	26年	27年	前年比
北 海 道	17.2	18.3	106.4
東 北	1.4	3.0	214.3
関 東	5.8	8.4	144.8
北 陸 信 越	3.5	3.9	111.4
中 部	3.5	3.6	102.9
関 西	7.2	9.1	126.4
中 国	2.2	4.5	204.5
四 国	6.8	11.3	166.2
九 州	6.8	8.1	119.1

表35 国籍別外国人宿泊人員

(単位：%)

年 度		韓 国	台 湾	中 国	香 港	タ イ	米 国	英 国	その他不明
旅 館	平成 22 年	12.4	34.5	10.6	9.4	－	3.4	1.1	27.0
	23 年	11.8	43.5	7.8	13.5	－	4.2	0.7	18.4
	24 年	9.3	45.3	8.7	11.4	－	5.5	0.9	18.9
	25 年	8.6	44.6	9.3	10.8	3.4	2.3	0.5	20.5
	26 年	8.2	36.6	15.6	12.4	4.1	2.4	0.7	20.0
	27 年	11.5	28.1	19.4	12.7	3.0	3.1	0.8	21.4
ホ テ ル	平成 24 年	6.0	11.7	3.9	2.5	－	4.3	2.5	69.1
	25 年	4.0	13.9	11.6	6.6	3.6	5.7	1.6	53.0
	26 年	8.7	15.2	15.5	5.2	4.1	4.8	1.7	44.8
	27 年	7.9	13.4	45.5	8.9	1.7	7.4	0.8	14.4

### 3. 外国人宿泊客 〈表 32、表 33、表 34、表 35〉

#### (1) 外国人宿泊人員比率

外国人宿泊人員比率＝外国人宿泊人員

÷ 年間延べ宿泊人員 ×100

外国人宿泊人員比率は7.3%に上昇した。訪日外客の増加により旅館の外国人宿泊人員は確実に増加している。

・大旅館 7.6% (+0.1p、+1.3%)

・中旅館 6.5% (+0.5p、+8.3%)

・小旅館 10.0% (+1.9p、+23.5%)

(ホテル) 8.2%と旅館より高い。

#### (2) 地域別外国人宿泊人員比率

地域別では北海道が18.3%と高い。次いで四国の11.3%となっている。

増加率をみると東北と中国が倍増の伸びを示している。次いで四国166.2%、関東144.8%が高い伸びを示している。

#### (3) 国籍別外国人宿泊人員

外国人の国籍では台湾が最も多く28.1%を占めるが、比率は低下傾向にある。次いで多いのが中国19.4%で、中国は順調に増加している。韓国は低下から一転して持ち直しがみられる。

(ホテル) 中国からの来訪が45.5%と多い。

#### (4) 外国人受け入れの意向について〈表 36、表 37〉

「料金に関わりなく受け入れたい」という積極派が増加し45.1%となっている。一方、「日本人観光客を優先する」は21.4%と低下している。

外国人の受け入れ意向を規模別にみると、「料金に関わりなく…」は中旅館が高い。小旅館は「日本人優先」も高く二極化している。

(ホテル)「料金に関わりなく…」は51.5%と高い。「日本人優先」は33.3%と旅館より高い。受け入れに積極的なところとそうでないところに二極化している。

#### (2) 公衆無線 LAN の設置 〈表 38〉

スマートホン(スマホ)の普及により公衆無線LANのニーズが高まっている。さらに、訪日外国人は携帯電波でスマートホンを使用すると高額な国際通信料が必要となる。そのため、無料の電波は訪日外国人にとって必須といえる。

公衆無線LANを設置しているのは、旅館では89.9%となっている。規模別では大旅館の設置が94.6%だが、小旅館は82.0%にとどまる。

(ホテル)90.9%と旅館より高い。

### 4. インターネット対応 〈表 38〉

#### (1) サイトコントローラーの導入状況

多くの旅館ホテルは複数のネット業者と契約している。ネット業者に提供した客室管理を自動化するソフトがサイトコントローラーである。その導入状況は大旅館で97.3%となっているが、小旅館は58.6%と低い。

(ホテル)導入状況は66.7%と旅館の平均よりも低い。

表36 外国人の受け入れ意向 (単位：%)

年 度		料金に関わりなく受け入れたい	高単価の外客のみ受け入れたい	日本人観光客を優先する	外客は受け入れたくない
旅 館	平成 22 年	39.4	33.3	28.6	0.5
	23 年	39.9	33.0	27.1	1.5
	24 年	32.4	29.3	34.0	0.8
	25 年	40.5	25.4	27.8	2.7
	26 年	44.1	24.1	28.1	2.7
	27 年	45.1	26.6	21.4	2.9
ホ テ ル	平成 24 年	60.9	8.7	21.7	4.3
	25 年	60.7	3.6	17.9	3.6
	26 年	50.0	17.9	28.6	3.6
	27 年	51.5	9.1	33.3	0.0

表37 規模別外国人の受け入れ意向 (単位：%)

平成 26 年度	(大旅館)	(中旅館)	(小旅館)	旅 館	ホ テ ル
料金に関わりなく受け入れたい	32.4	49.7	43.8	45.1	51.5
高単価の外客のみ受け入れたい	51.4	28.7	17.2	26.6	9.1
日本人観光客を優先する	13.5	18.2	27.3	21.4	33.3
外客は受け入れたくない	0.0	0.7	6.3	2.9	0.0

表38 インターネット対応状況 (単位：%)

	サイトコントローラー(手間いらず、ねっぼん、TL リンカーン等)を導入している	公衆無線 LAN を設置している
旅 館	75.6	89.9
大旅館	97.3	94.6
中旅館	85.3	95.8
小旅館	58.6	82.0
北海道	76.0	92.0
東北	64.7	79.4
関東	80.0	86.7
北陸信越	73.6	96.2
中部	80.6	90.3
関西	83.1	93.2
中国	60.0	90.0
四国	73.3	86.7
九州	76.9	88.5
黒字旅館	77.6	90.9
赤字旅館	68.7	86.6
ホテル	66.7	90.9

### (3) 公衆無線 LAN の設置場所〈表 39〉

次に、公衆無線LANを設置済みの旅館ホテルを対象に設置場所の設問したところ、全館は51.1%となっている。規模別では小旅館で高く、地域別では外国人利用者の割合が高い北海道で全館導入が多くなっている。

全館導入ができていない旅館ホテルの設置場所で最も多いのはロビーとなっている。大旅館では会議室での導入が比較的多くなっている。

(ホテル) 全館導入が73.3%と旅館より高くなっている。

## 3. クレジットカード〈表 40〉

### (1) クレジットカード決済

クレジットカード決済が可能な旅館ホテルは89.3%に及ぶ。大旅館は全てで決済が可能としている。小旅館は78.1%と低い。地域別では中部が100%であったほか、北海道、中国、九州が90%台であった。

(ホテル) 93.9%が可能としており旅館の平均を上回る。

### (2) 決裁端末の導入

決済可能な旅館ホテルに決済端末の普及度を設問した。各規模とも97%台で並んでいる。

地域別では、北海道、東北、関東、関西、中国が100%となっている。

(ホテル) 決裁端末の導入は96.8%となっている。

### (3) カード決済の割合

カード決済の割合は25.6%で、小旅館が最も高い。クーポン券が発行される旅行業からの送客が多い大旅館ではカード決済の割合は17.8%と低い。地域別でみると四国が38.2%と最も高い。

(ホテル) 決裁の割合は26.3%と旅館よりわずかに高い。

## むすび

会員同士であってもお互いの経営の内情を知り合うことは容易ではありません。この報告書は集計結果という平均像ですが、平均像をとおして業界全体が今を知り、自社の現状を再確認していただいたい。そして、改善のための道筋を見い出せることを願っています。

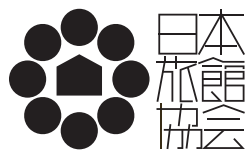
ご協力を頂いた旅館ホテルの各位に深く感謝し、全会員の益々の発展を祈念致しております。

表39 公衆無線 LAN の設置場所 (単位：%)

	全館	ロビー	客室	会議室	宴会場	その他
旅館	51.1	47.5	15.9	8.7	2.9	1.8
大旅館	40.0	57.1	22.9	17.1	2.9	2.9
中旅館	51.1	46.7	12.4	10.9	2.9	2.9
小旅館	54.8	45.2	18.3	2.9	2.9	0.0
北海道	65.2	39.1	17.4	4.3	13.0	0.0
東北	44.4	55.6	7.4	22.2	11.1	0.0
関東	35.9	56.4	20.5	12.8	0.0	5.1
北陸信越	62.0	38.0	8.0	4.0	2.0	0.0
中部	42.9	50.0	28.6	7.1	0.0	0.0
関西	54.5	43.6	12.7	7.3	0.0	3.6
中国	27.8	77.8	27.8	16.7	0.0	0.0
四国	61.5	46.2	23.1	7.7	7.7	0.0
九州	60.9	34.8	13.0	0.0	0.0	4.3
黒字旅館	54.6	43.6	14.7	7.8	2.8	1.8
赤字旅館	37.9	62.1	20.7	12.1	3.4	1.7
ホテル	73.3	23.3	16.7	3.3	0.0	3.3

表40 クレジットカード (単位：%)

	クレジットカードで決済が可能		
		決済端末を導入している	カード決済の割合
旅館	89.3	97.5	25.6
大旅館	100.0	97.3	17.8
中旅館	96.5	97.8	23.8
小旅館	78.1	97.0	31.0
北海道	92.0	100.0	24.6
東北	85.3	100.0	24.4
関東	86.7	100.0	29.5
北陸信越	88.7	93.6	20.5
中部	100.0	96.8	23.1
関西	89.8	100.0	26.6
中国	90.0	100.0	30.8
四国	73.3	90.9	38.2
九州	92.3	91.7	22.9
黒字旅館	88.4	97.7	25.7
赤字旅館	92.5	96.8	25.3
ホテル	93.9	96.8	26.3



一般社団法人 **日本旅館協会**  
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

---

平成29年1月  
**営業状況等統計調査**

発行 一般社団法人 日本旅館協会  
〒102-0093  
東京都千代田区平河町 2-5-5  
全国旅館会館2階  
TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

---

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。